

三重大学

学生総合支援機構

2021年度
報告書

Mie
University
Organization
for Student
Affairs



目次

I 学生総合支援機構

・ 組織図	01
・ 学生総合支援機構運営会議 委員名簿	02
・ 学生委員会 委員名簿	03

II 修学支援センター

・ 活動報告	04
・ 奨学生数	05
・ 学部別外国人留学生数	06
・ 国籍別外国人留学生数	07
・ 入学料免除者数	08
・ 授業料免除者数	09
・ 学生寄宿舎入寮許可状況	10
・ 学生保険の加入について	11

III キャリアセンター

・ 活動報告	13
・ 就職状況	18

IV 学生活動センター

・ 活動報告	20
・ クラブ・サークル一覧(体育系・文化系)	21

V 学生相談センター

・ 活動報告	23
--------	----

VI 障がい学生支援センター

・ 活動報告	25
・ 三重大学障がい学生支援セミナー2021 実施報告	27

VII SA(スチューデント・アシスタント)

・ 取り組みを振り返って	29
・ キャリア・ピアサポーター資格取得ガイド	30

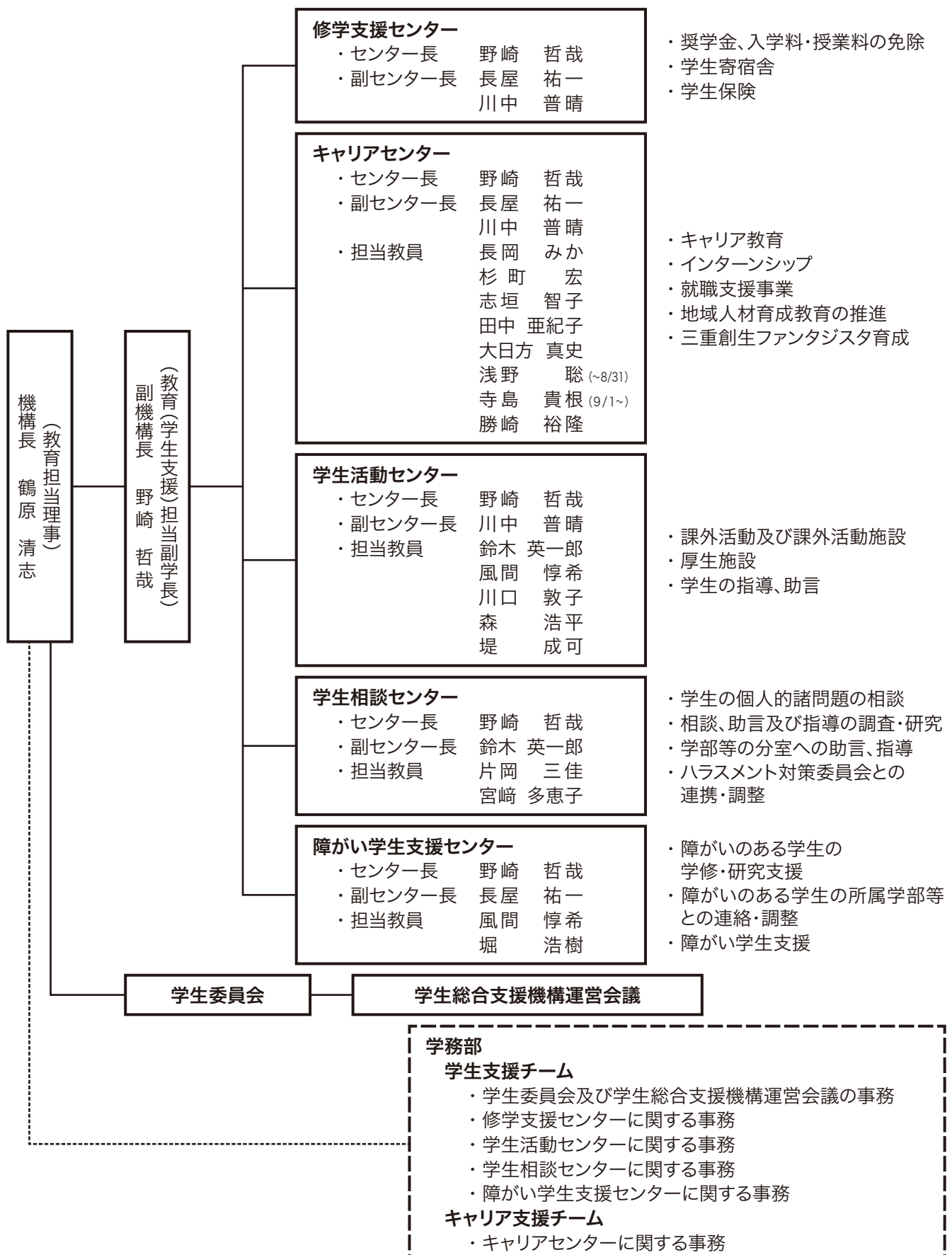
VIII 学生総合支援機構主催行事

・ 学生支援サミット2021	32
----------------	----



学生総合支援機構

令和3年度 学生総合支援機構 組織図



令和3年度 学生総合支援機構運営会議 委員名簿

		氏 名	備 考
委員	学生総合支援機構長	鶴原 清志	議長 教育担当理事
	学生総合支援機構副機構長 修学支援センター長 キャリアセンター長 学生活動センター長 学生相談センター長 障がい学生支援センター長	野崎 哲哉	教育(学生支援)担当副学長
	修学支援センター副センター長 キャリアセンター副センター長 障がい学生支援センター副センター長	長屋 祐一	学生総合支援担当学長補佐
	修学支援センター副センター長 キャリアセンター副センター長 学生活動センター副センター長	川中 普晴	学生総合支援・IR担当学長補佐
	学生相談センター副センター長	鈴木 英一郎	
	学生活動センター 障がい学生支援センター	風間 惇希	
	キャリアセンター	長岡 みか	
	キャリアセンター	田中 亜紀子	人文学部
	キャリアセンター	大日方 真史	教育学部
	キャリアセンター	浅野 聡	工学部(～8月31日)
	キャリアセンター	寺島 貴根	工学部(9月1日～)
	キャリアセンター	勝崎 裕隆	生物資源学部
	学生活動センター	川口 敦子	人文学部
	学生活動センター	森 浩平	教育学部
	学生活動センター	堤 成可	工学部
	学生相談センター	片岡 三佳	医学部
	学生相談センター	宮崎 多恵子	生物資源学部
	障がい学生支援センター	堀 浩樹	医学部
	学務部長	草川 弥生	
陪席	学生支援課長	河村 俊男	
	学生支援チーム副課長	小西 孝博	
	キャリア支援課長	富島 嘉夫	

令和3年度 学生委員会 委員名簿

		氏 名	備 考
委員	学生総合支援機構長	鶴原 清志	議長 教育担当理事
	学生総合支援機構副機構長 修学支援センター長 キャリアセンター長 学生活動センター長 学生相談センター長 障がい学生支援センター長	野崎 哲哉	教育(学生支援)担当副学長
	人文学部副学部長	豊福 裕二	
	教育学部副学部長	宮岡 邦任	
	医学系研究科副研究科長	野阪 哲哉	
	工学研究科副研究科長	久保 雅敬	
	生物資源学研究科副研究科長	神原 淳	
	地域イノベーション学研究科副研究科長	松田 裕子	広報担当学長補佐
	修学支援センター副センター長 キャリアセンター副センター長 障がい学生支援センター副センター長	長屋 祐一	学生総合支援担当学長補佐
	修学支援センター副センター長 キャリアセンター副センター長 学生活動センター副センター長	川中 普晴	学生総合支援・IR担当学長補佐
	学生相談センター副センター長	鈴木 英一郎	
	保健管理センター所長	小林 由直	保健管理担当学長補佐
	国際交流センター長	金子 聡	
	人文学部学生支援委員会委員長	グットマン ティエリー ルシアン ジェラル	
	教育学部選出委員	中西 良文	
	医学部学生委員会委員長	堀 浩樹	
	工学部学生委員会委員長	河内 亮周	
	生物資源学部学生委員会委員長	名田 和義	
	学務部長	草川 弥生	
陪席	学生支援課長	河村 俊男	
	学生支援チーム副課長	小西 孝博	
	キャリア支援課長	富島 嘉夫	

Ⅱ 修学支援センター

令和3年度 活動報告

1 修学支援事業(「食」に対する支援)の実施

様々な要因(新型コロナウイルス感染症拡大の影響、生計維持者の死亡や失職または病気等により就労が困難となった等)に起因する学生生活や修学環境の変化により、経済的に困窮している学生に対して、「食」の支援を行う事業を行った。支援内容は、1人当たり1万円分の食事券(三重大学生協が提供するお弁当引換券)の配布。5月及び8月に2回の募集を行い、574名から申請があり、支援要件を満たす494名(人数は延べ)に支援を行った。

2 「学生等の学びを継続するための緊急給付金」事業への対応

国が実施した「学生等の学びを継続するための緊急給付金」事業について、本学でも学生からの申請受付を行い、選考の上、要件を満たす者を日本学生支援機構に推薦をした。事業内容は、対象学生1人あたり10万円の給付金を支給。一次募集(12月)、二次募集(2月)及び三次募集(3月)の実施があり、申請者は532名(延べ人数)、推薦者は293名(実人数)であった。その他、12月10日時点で修学支援新制度の給付奨学金を受け取っている464名の内、461名(3名は受取り辞退)についても緊急給付金の支給がされた。

3 家計急変世帯への緊急支援措置制度による授業料免除の実施

新型コロナウイルス感染症による影響で、家計が急変し授業料の納付が困難となった世帯の学生に対して、緊急支援措置として、令和3年度の授業料免除支援を実施した。前期は全額免除者1名、半額免除者1名、後期は全額免除者2名、半額免除者1名であった。

4 家計急変による給付奨学金及び貸与奨学金の申請受付について

家計急変の事由が生じた学生に対し、年間を通じて申請受付を行い、日本学生支援機構へ随時推薦を行っている。令和3年度は、家計急変採用給付型奨学金について1名の申請があり、推薦したところ、採用となった。

5 「緊急特別無利子貸与型奨学金」への対応

新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりアルバイト収入が大幅に減少した学生等を対象とした、「緊急特別無利子貸与型奨学金」について、年間を通じて申請受付を行い、日本学生支援機構へ随時推薦を行っている。

令和3年度は、2名の申請があり、推薦したところ両名ともに採用となった。

6 学生寄宿舍の改善及び備品

* 学生寄宿舍全体	新型コロナウイルス感染症対策 消毒液、消毒液噴霧器などの購入
* 男子学生寄宿舍	エアコン清掃 65台 715千円 冷蔵庫取替 大型冷蔵庫 4台 717千円 居室床改修修繕 2室 473千円
* 女子学生寄宿舍	冷蔵庫取替 2,106千円 ピアノ調律 36千円
* 国際女子学生寄宿舍	エアコン清掃 63台 693千円 エアコン取替工事 7台 1,034千円 自動扉開閉装置修繕工事(玄関) 512千円 居室のクロス張り替え 7室 946千円 流し台(1階から4階まで)更新工事 3,146千円

奨学生数

令和4年3月現在

学部等			区分	在学生数	日本学生支援機構				地方公共団体 民間育英団体	入学特別 奨学金	合計	在学生に 対する 百分率
					給付	第一種 (無利子)	第二種 (有利子)	計				
学部	人文学部		1,148	116	185	95	396	3	0	399	34.8%	
	教育学部		831	87	126	84	297	7	0	304	36.6%	
	医学部		1,081	74	99	123	296	300	0	596	55.1%	
	工学部		1,757	163	234	220	617	17	0	634	36.1%	
	生物資源学部		1,111	93	155	114	362	9	0	371	33.4%	
大学院	人文社会科学研究科		32		1	1	2	0	0	2	6.3%	
	教育学研究科	修士	27		3	1	4	0	1	5	18.5%	
		専門	35		1	1	2	1	0	3	8.6%	
	医学系研究科	修士	10		0	0	0	0	0	0	0.0%	
		前期	33		1	0	1	0	0	1	3.0%	
		後期	19		1	0	1	0	0	1	5.3%	
		博士	208		3	1	4	0	0	4	1.9%	
	工学研究科	前期	458		136	10	146	1	4	151	33.0%	
		後期	49		3	0	3	0	0	3	6.1%	
	生物資源学 研究科	前期	153		48	6	54	3	3	60	39.2%	
		後期	34		3	0	3	0	0	3	8.8%	
	地域イノベーション学 研究科	前期	30		5	0	5	0	2	7	23.3%	
		後期	31		1	1	2	0	0	2	6.5%	
計			7,047	533	1,005	657	2,195	341	10	2,546	36.1%	

※在学生数は令和3年5月時点

※合計は延べ数

令和3年度 外国人留学生数(学部・研究科等別)

令和3年11月1日現在

	学部		修士		博士		計
	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	
人文学部・人文社会科学研究科	14(4)	7(2)	11(5)	0(0)			32(11)
教育学部・教育学研究科	1(1)	0(0)	3(2)	0(0)			4(3)
医学部・医学系研究科	0(0)	0(0)	1(1)	0(0)	19(10)	0(0)	20(11)
工学部・工学研究科	17(2)	4(1)	15(4)	0(0)	21(8)	0(0)	57(15)
生物資源学部・生物資源学研究科	1(1)	3(2)	19(8)	3(1)	16(7)	0(0)	42(19)
地域イノベーション学研究科			6(3)	0(0)	2(1)	0(0)	8(4)
国際交流センター		23(20)		0(0)		0(0)	23(20)
計	33(8)	37(25)	55(23)	3(1)	58(26)	0(0)	186(83)

()は、内数で女子を示す。

令和3年度 国籍別外国人留学生数調

29ヶ国・地域 総数 186 (女子 83)

令和3年11月1日現在

地域・国名		【学 部】		【大 学 院】		【国際交流センター】	計
		正規生	非正規生	正規生	非正規生	非正規生	
アジア	中国	10(2)	12(5)	52(26)	1(1)	19(17)	94(51)
	インドネシア			13(6)	1(0)	1(1)	15(7)
	ベトナム	8(1)		6(0)		1(1)	15(2)
	韓国	12(5)					12(5)
	マレーシア	2(0)		4(3)			6(3)
	タイ			4(3)		1(0)	5(3)
	バングラデシュ			4(2)			4(2)
	フィリピン			2(1)	1(0)		3(1)
	カンボジア	1(0)		1(0)			2(0)
	ミャンマー			2(0)			2(0)
	ラオス			1(0)			1(0)
	ネパール			1(1)			1(1)
	スリランカ			1(0)			1(0)
	東ティモール			1(1)			1(1)
	台湾		1(0)	1(0)			2(0)
アフリカ	ガーナ			5(2)			5(2)
	ザンビア			3(0)			3(0)
	エジプト			2(2)			2(2)
	タンザニア			2(0)			2(0)
	アルジェリア			1(0)			1(0)
	ケニア			1(0)			1(0)
	モザンビーク			1(0)			1(0)
ヨーロッパ	ブルガリア		1(0)				1(0)
中南米	ブラジル					1(1)	1(1)
	パラグアイ			1(1)			1(1)
	メキシコ			1(0)			1(0)
オセアニア	パプアニューギニア			1(1)			1(1)
	ソロモン諸島			1(0)			1(0)
	バヌアツ			1(0)			1(0)
計		33(8)	14(5)	113(49)	3(1)	23(20)	186(83)
		47(13)		116(50)		23(20)	

()は、内数で女子を示す。

正規生 146(57)

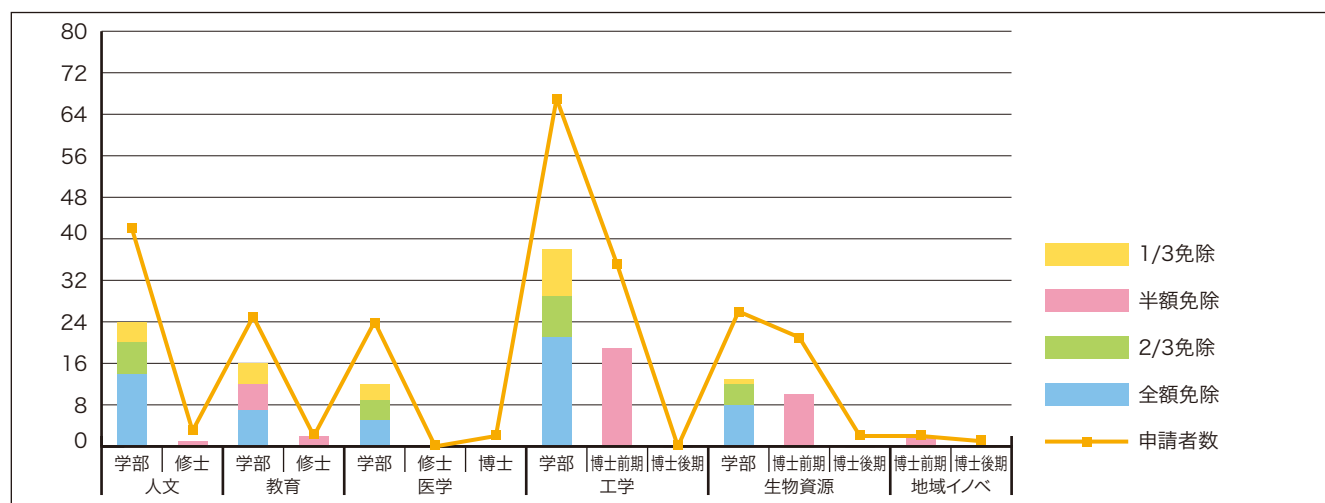
非正規生 40(26)

令和3年度 入学料免除者数(学部・研究科別)

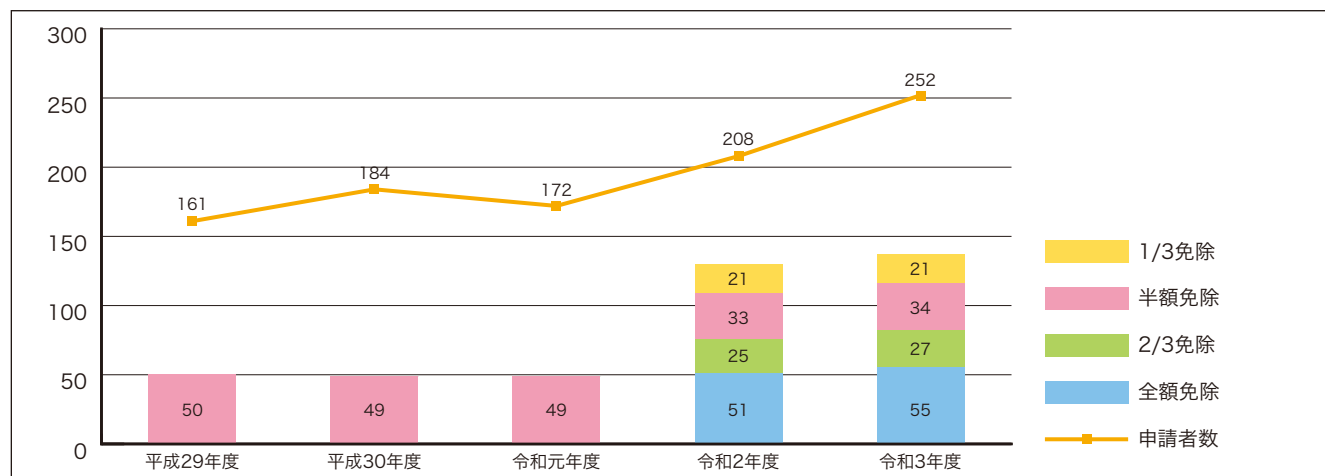
●入学料免除

学部・研究科名		申請者数	全額免除	2/3免除	半額免除	1/3免除
人文	学部	42	14	6	—	4
	修士	3	0	—	1	—
教育	学部	25	7	5	—	4
	専門職学位	2	0	—	2	—
医学	学部	24	5	4	—	3
	修士・博士前期	0	0	—	0	—
	博士・博士後期	2	0	—	0	—
工学	学部	67	21	8	—	9
	博士前期	35	0	—	19	—
	博士後期	0	0	—	0	—
生物資源	学部	26	8	4	—	1
	博士前期	21	0	—	10	—
	博士後期	2	0	—	0	—
地域イノベ	博士前期	2	0	—	2	—
	博士後期	1	0	—	0	—
合 計		252	55	27	34	21

●令和3年度入学料免除者数



●過去5年間の三重大学における入学料免除者数(平成29年度～令和3年度)

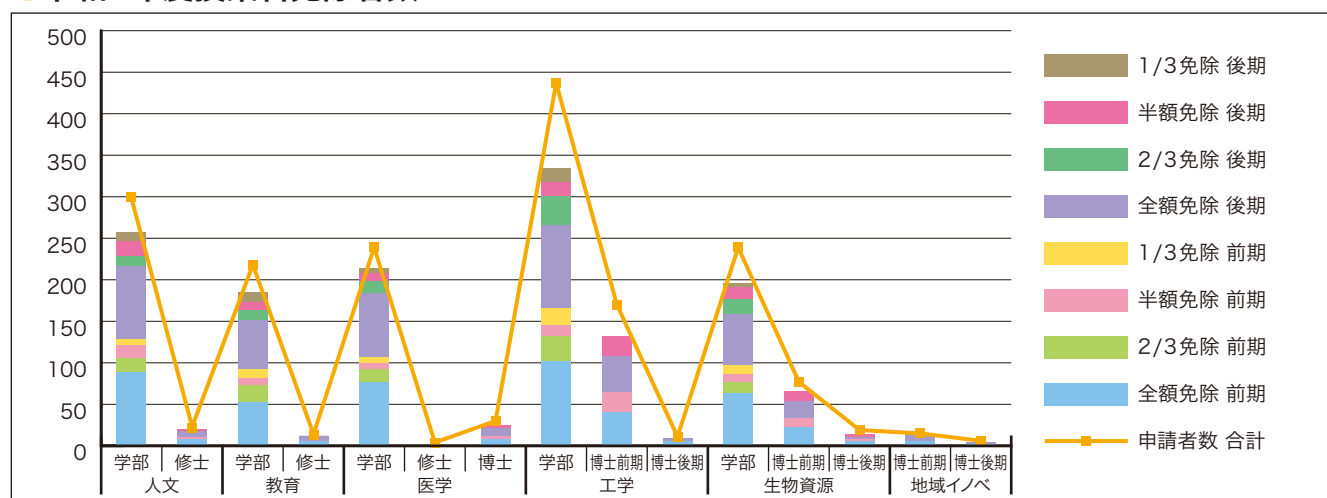


令和3年度 授業料免除者数(学部・研究科別)

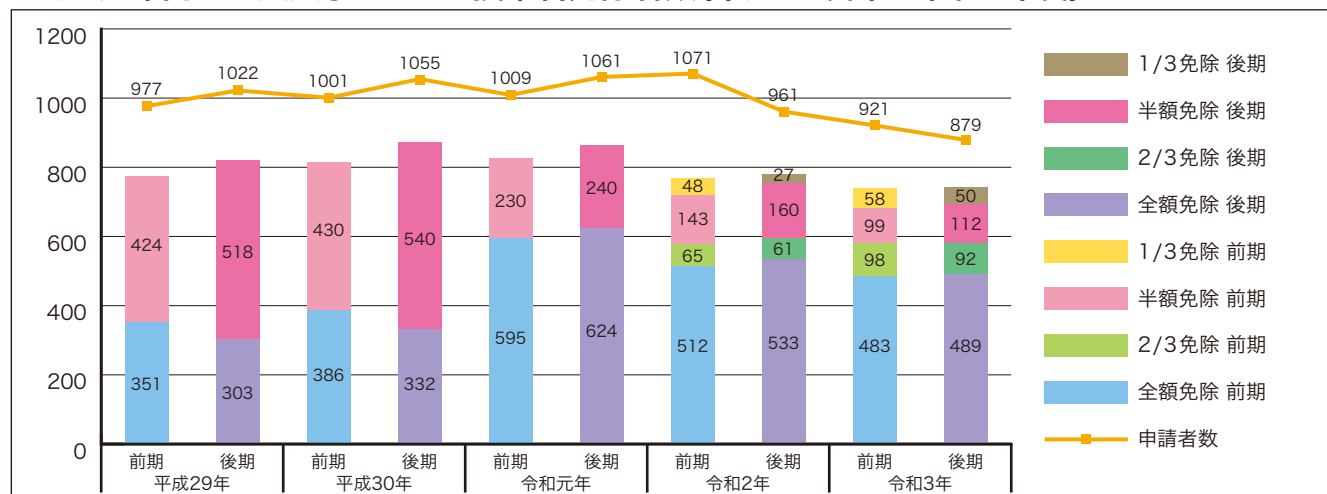
●授業料免除

学部・研究科名		申請者数			全額免除		2/3免除		半額免除		1/3免除		免除者計	
		前期	後期	合計	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
人文	学部	152	146	298	88	89	17	12	16	18	7	10	128	129
	修士	11	12	23	8	8	-	-	2	2	-	-	10	10
教育	学部	113	105	218	52	59	21	12	8	9	12	12	93	92
	修士・専門職	7	7	14	6	6	-	-	0	0	-	-	6	6
医学	学部	123	116	239	76	77	16	14	8	10	7	6	107	107
	修士・博士前期	1	3	4	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0
	博士・博士後期	14	16	30	8	9	-	-	4	4	-	-	12	13
工学	学部	228	209	437	102	99	30	36	13	16	21	17	166	168
	博士前期	83	87	170	40	43	-	-	25	24	-	-	65	67
	博士後期	6	5	11	5	4	-	-	0	0	-	-	5	4
生物資源	学部	125	114	239	63	62	14	18	9	14	11	5	97	99
	博士前期	38	39	77	22	21	-	-	11	11	-	-	33	32
	博士後期	10	9	19	5	2	-	-	3	4	-	-	8	6
地域イノベ	博士前期	7	8	15	6	8	-	-	0	0	-	-	6	8
	博士後期	3	3	6	2	2	-	-	0	0	-	-	2	2
合 計		921	879	1,800	483	489	98	92	99	112	58	50	738	743

●令和3年度授業料免除者数



●過去5年間の三重大学における授業料免除者数(平成29年度～令和3年度)



令和3年度 入寮許可状況報告

●男子学生寄宿舍

定員:109名	募集人数	申請者数	許可者数	備考
前期試験合格者対象(注1)	35	19	19	
後期試験合格者対象(注2)	28	6	6	1名辞退

●女子学生寄宿舍

定員:60名	募集人数	申請者数	許可者数	備考
前期試験合格者対象(注1)	20	21	20	1名辞退
後期試験合格者対象(注2)	3	3	3	

●国際女子学生寄宿舍

定員:日本人学生50名 留学生25名		募集人数	申請者数	許可者数	備考
日本人新入生	前期試験合格者対象(注1)	10	12	10	1名辞退
	後期試験合格者対象(注2)	4	4	4	
日本人学生(2年生転寮)		11	11	11	
留学生		2	2	2	

(注1) AO推薦入学試験合格者及び編入学試験合格者を含む。

(注2) 編入学試験合格者を含む

●留学生会館

定員:35名	募集人数	申請者数	許可者数	備考
单身室(30人)	8	8	8	新型コロナウイルス感染拡大の影響により入国できない等により、8名辞退。
夫婦室(5室)	1	1	1	

●留学生寄宿舍A棟

定員:49名	募集人数	申請者数	許可者数	備考
单身室(17人)	3	3	3	新型コロナウイルス感染拡大の影響により入国できない等により、3名辞退。
4人部屋(32人)	0	0	0	

●留学生寄宿舍B棟

定員:35名	募集人数	申請者数	許可者数	備考
单身室(35人)	13	13	13	新型コロナウイルス感染拡大の影響により入国できない等により、8名辞退。

●留学生寄宿舍C・D棟

定員:85名	募集人数	申請者数	許可者数	備考
单身室(29人)※	20	20	20	新型コロナウイルス感染拡大の影響により入国できない等により、9名辞退。
4人部屋(56人)	14	14	14	新型コロナウイルス感染拡大の影響により入国できない等により、4名辞退。

※C棟の留学生用单身室は9部屋。C棟には他に研究者用单身室が6部屋ある。

令和3年度 学生保険の加入について

● 学生教育研究災害傷害保険・学生教育研究賠償責任保険

令和3年度

学部・研究科		入学者数	加入者数	加入率
人文学部		283	173	61.1%
教育学部		200	124	62.0%
医学部		205	185	90.2%
工学部		441	330	74.8%
生物資源学部		276	153	55.4%
学部計		1,405	965	68.7%
人文社会科学研究科		7	5	71.4%
教育学研究科		18	14	77.8%
医学系研究科	生命医科学専攻(博士課程)	42	17	40.5%
	看護学専攻(博士後期課程)	3	2	66.7%
	看護学専攻(博士前期課程)	10	8	80.0%
	医科学専攻(修士課程)	1	1	100.0%
工学研究科	(博士後期課程)	8	1	12.5%
	(博士前期課程)	242	175	72.3%
生物資源学研究科	(博士後期課程)	10	9	90.0%
	(博士前期課程)	83	36	43.4%
地域イノベーション学研究科	(博士後期課程)	9	8	88.9%
	(博士前期課程)	11	9	81.8%
大学院計		444	285	64.2%
合計		1,849	1,250	67.6%

● 学研災付帯学生生活総合保険

令和3年度

学部・研究科		入学者数	加入者数	加入率
人文学部		283	11	3.9%
教育学部		200	14	7.0%
医学部		205	52	25.4%
工学部		441	37	8.4%
生物資源学部		276	17	6.2%
学部計		1,405	131	9.3%
人文社会科学研究科		7	0	0.0%
教育学研究科		18	3	16.7%
医学系研究科	生命医科学専攻(博士課程)	42	0	0.0%
	看護学専攻(博士後期課程)	3	0	0.0%
	看護学専攻(博士前期課程)	10	0	0.0%
	医科学専攻(修士課程)	1	0	0.0%
工学研究科	(博士後期課程)	8	0	0.0%
	(博士前期課程)	242	7	2.9%
生物資源学研究科	(博士後期課程)	10	0	0.0%
	(博士前期課程)	83	5	6.0%
地域イノベーション学研究科	(博士後期課程)	9	0	0.0%
	(博士前期課程)	11	0	0.0%
大学院計		444	15	3.4%
合計		1,849	146	7.9%

●大学生協の学生総合共済

令和3年度

学部・研究科		入学者数	加入者数	加入率
人 文 学 部		283	194	68.6%
教 育 学 部		200	105	52.5%
医 学 部		205	138	67.3%
工 学 部		441	316	71.7%
生 物 資 源 学 部		276	208	75.4%
学部計		1,405	961	68.4%
人文社会科学部研究科		7	0	0.0%
教育学研究科		18	5	27.8%
医 学 系 研 究 科	生命医科学専攻(博士課程)	42	0	0.0%
	看護学専攻(博士後期課程)	3	0	0.0%
	看護学専攻(博士前期課程)	10	0	0.0%
	医科学専攻(修士課程)	1	0	0.0%
工 学 研 究 科	(博 士 後 期 課 程)	8	2	25.0%
	(博 士 前 期 課 程)	242	170	70.2%
生 物 資 源 学 研 究 科	(博 士 後 期 課 程)	10	0	0.0%
	(博 士 前 期 課 程)	83	55	66.3%
地域イノベーション学研究科	(博 士 後 期 課 程)	9	0	0.0%
	(博 士 前 期 課 程)	11	3	27.3%
大学院計		444	235	52.9%
合計		1,849	1,196	64.7%

●学研災・学研賠又は大学生協保険の加入者について

令和3年度

学部・研究科		入学者数	加入者数	加入率
人 文 学 部		283	268	94.7%
教 育 学 部		200	198	99.0%
医 学 部		205	198	96.6%
工 学 部		441	409	92.7%
生 物 資 源 学 部		276	272	98.6%
学部計		1,405	1,345	95.7%
人文社会科学部研究科		7	5	71.4%
教育学研究科		18	16	88.9%
医 学 系 研 究 科	生命医科学専攻(博士課程)	42	17	40.5%
	看護学専攻(博士後期課程)	3	2	66.7%
	看護学専攻(博士前期課程)	10	9	90.0%
	医科学専攻(修士課程)	1	1	100.0%
工 学 研 究 科	(博 士 後 期 課 程)	8	5	62.5%
	(博 士 前 期 課 程)	242	217	89.7%
生 物 資 源 学 研 究 科	(博 士 後 期 課 程)	10	10	100.0%
	(博 士 前 期 課 程)	83	74	89.2%
地域イノベーション学研究科	(博 士 後 期 課 程)	9	9	100.0%
	(博 士 前 期 課 程)	11	11	100.0%
大学院計		444	376	84.7%
合計		1,849	1,721	93.1%

Ⅲ キャリアセンター

令和3年度 活動報告

1 キャリア教育科目について

キャリア教育領域

科目群	授業科目・単位		(分野 H26年度 以前入学 者対象)	授業テーマ	担当教員	授業時限		履修者数	
						前期	後期	前期	後期
キャリア 教育基礎	キャリア教育入門	2単位	社会	キャリア形成	長岡　みか	水5・6	—	138	—
			社会	キャリア形成	杉町　宏	木5・6	—	21	—
			社会	キャリア形成	杉町　宏	金9・10	—	41	—
			社会	キャリア形成	長岡　みか	—	水5・6	—	110
			社会	キャリア形成	杉町　宏	—	水7・8	—	18
			社会	キャリア形成	杉町　宏	—	木3・4	—	7
	インターンシップ入門	2単位	社会	インターンシップ	長岡　みか	水7・8	—	84	—
			社会	インターンシップ	杉町　宏	金7・8	—	57	—
			社会	インターンシップ	長岡　みか	—	水7・8		92
			社会	インターンシップ	杉町　宏	—	金7・8	—	30
学生支援	ピアサポート実践	2単位	社会	ピアサポート実践	鈴木　英一郎 他	金9・10	—	13	—
			社会	ピアサポート実践	風間　惇希 他	—	金9・10	—	10
	学生生活支援実践	2単位	社会	学生生活支援実践	鈴木　英一郎	—	金7・8	—	9
	学習支援実践	2単位	社会	学習支援の企画と実践	風間　惇希	水9・10	—	16	—
就業力 育成	ビジネスキャリア入門	2単位	社会	ビジネスキャリア	杉町　宏	水5・6	—	29	—
			社会	ビジネスキャリア	杉町　宏	—	水5・6	—	46
計						5科目	5科目	399	322

キャリア教育関連教養統合科目

地域理解・日本理解領域

科目群	授業科目・単位		(分野 H26年度 以前入学 者対象)	授業テーマ	担当教員	授業時限		履修者数	
						前期	後期	前期	後期
日本理解 特殊講義	日本理解特殊講義	2単位	社会	起業マインドの醸成	松岡 守 他	—	水3・4	—	9
		2単位	社会	起業マインドの醸成	西村 訓弘 他	月7・8	—	46	—
計						1科目	1科目	46	9

国際理解・現代社会理解領域

科目群	授業科目・単位		(分野 H26年度 以前入学 者対象)	授業テーマ	担当教員	授業時限		履修者数	
						前期	後期	前期	後期
心理学	こころのサポート	2単位	社会	こころのサポート	望木 郁代	木1・2	—	89	—
			社会	こころのサポート	風間 惇希	水5・6	—	163	—
			社会	こころのサポート	望木 郁代	—	木1・2	—	99
			社会	こころのサポート	鈴木 英一郎	—	木9・10	—	99
国際理解 実践	国際理解実践	2単位	社会	留学生支援実践	風間 惇希	—	水9・10	—	15
現代社会 理解実践	現代社会理解実践	2単位	社会	障がい学生への支援	栗田 季佳 他	—	火3・4	—	45
計						1科目	3科目	252	258
合計						7科目	9科目	697	589

2 インターンシップ

令和3年度 インターンシップ参加者数(所属学部・研究科別／学年別)

2022.3.31現在
延べ数

所属	学部生					大学院生			合計
	1年	2年	3年	4年	小計	修士	博士	小計	
人文学部	12	60	320		392			0	392
教育学部		2	10		12			0	12
医学部					0			0	0
工学部	3	4	111	3	121	28	1	29	150
生物資源学部	6	33	154	1	194	11		11	205
地域イノベーション学研究科	-	-	-	-	0	4		4	4
非正規生	3				3			0	3
合計	24	99	595	4	722	43	1	44	766

■ 企業等受入数(実数) 286機関

■ 事前研修会 563名

■ 事後研修会 435名

3 就職活動支援

(1) 就職ガイダンス

- ・令和3年4月～令和4年3月 25回実施 オンライン開催
- ・参加学生数 延べ 9,638人(2022.3.31)

N0	日程	曜日	時間帯	場所	ガイダンス名	参加者数	講師
1	4月14日	水	16:20～18:00	WEB(ZOOM)	①キャリアセンタースタートアップガイダンス ②就職活動スケジュール・準備について概要	523	キャリアセンター・マイナビ
	4月16日	金		WEB(ZOOM)		398	キャリアセンター・マイナビ
2	4月21日	水	16:30～18:00	WEB(ZOOM)	公務員対策講座	146	生協
3	4月26日	月	16:30～17:40	WEB(ZOOM)	未内定学生のためのオンライン 企業説明会&マッチング会	25	キャリアセンター
	4月28日	水		WEB(ZOOM)		42	キャリアセンター
	5月10日	月		WEB(ZOOM)		42	キャリアセンター
4	5月19日	水	16:30～17:40	WEB(ZOOM)	インターンシップ先の探し方講座	180	マイナビ
	5月21日	金	16:30～17:40	WEB(ZOOM)		290	リクナビ
5	5月中旬		通年	WEB(moodle)		210	キャリアセンター
6	5月26日	水	16:20～18:00	WEB(ZOOM)	インターンシップ学内企業説明会 (協定締結企業 15社程度×4日程)	800	キャリアセンター
	5月28日	金					
	6月2日	水					
	6月4日	金					
7	5月下旬		通年	WEB(ZOOM)	インターンシップ履歴書対策講座	475	キャリアセンター
8	6月16日	水	16:20～17:20	WEB(ZOOM)	自己分析対策講座～職務適性テスト	237	ディスコ
						テスト受験者 343	
9	6月23日	水	16:20～17:20	WEB(ZOOM)	自己分析対策講座	117	ディスコ
10	7月上旬		通年	WEB(moodle)	インターンシップ事前研修会(人文学部)	563	各学部 キャリアセンター
					インターンシップ事前研修会(工学部)		
					インターンシップ事前研修会 (生物資源学部)		
					インターンシップ事前研修会 (教育学部・医学部)		
11	10月9日	土	13:00～13:40	WEB (OCANS/ZOOM)	保護者様向け就職活動説明会	320	キャリアセンター
			14:00～		学部別保護者様向け説明会	326	各学部

N0	日程	曜日	時間帯	場所	ガイダンス名	参加者数	講師
12	10月21日	木	16:20～17:50	WEB(ZOOM)	インターンシップ事後研修会(人文学部)	79	各学部 キャリアセンター
	10月27日	水		WEB(ZOOM)		95	
	10月28日	木	16:20～17:50	WEB(ZOOM)	インターンシップ事後研修会(工学部)	22	
	11月4日	木		WEB(ZOOM)		33	
	10月20日	水	16:20～17:50	WEB(ZOOM)	インターンシップ事後研修会 (生物資源学部)	43	
	10月29日	金		WEB(ZOOM)		59	
	11月24日	水	16:20～17:50	WEB(ZOOM)	インターンシップ事後研修会 (追加回:全学部)	34	
13	10月13日	水	16:20～17:50	WEB(ZOOM)	業界・企業研究講座	192	リクナビ
14	10月20日	水	16:20～17:50	WEB(ZOOM)	エントリーシート対策 自己PR編	205	マイナビ
15	10月27日	水	16:20～17:50	WEB(ZOOM)	エントリーシート対策 志望動機編	154	ディスコ
16	11月3日	水・祝	14:00～17:10	WEB(ZOOM)	業界研究セミナー 30社	123	キャリアセンター
	11月17日	水	13:00～16:10	WEB(ZOOM)	業界研究セミナー(就職支援講座) 32社 授業コラボ	213	キャリアセンター
	11月23日	火・祝	13:00～16:10	WEB(ZOOM)	業界研究セミナー 23社	89	キャリアセンター
	11月24日	水	13:00～16:10	WEB(ZOOM)	業界研究セミナー(就職支援講座) 32社 授業コラボ	205	キャリアセンター
17	12月1日	水	16:20～18:00	WEB(ZOOM)	就活裏話 ～採用活動のリアルな今～	60	アール・ コンサルティング
18	12月6日～ 12月17日	月～金	16:30～19:15	WEB(ZOOM)	企業研究会 159社(各日16社)	618	キャリアセンター
	1月10日	月・祝	終日	WEB(ZOOM)	企業研究会 48社	120	キャリアセンター
	1月20日～ 1月21日	木～金	16:30～19:15	WEB(ZOOM)	企業研究会 32社	164	キャリアセンター
19	12月22日	水	16:20～19:05	WEB(ZOOM)	公務員業務説明会 16団体	120	生協
	1月19日	水	16:30～18:30	WEB(ZOOM)	公務員業務説明会 17団体	145	生協
20	1月12日	水	16:20～17:50	WEB(ZOOM)	面接対策講座	194	マイナビ
21	1月31日・ 2月2日	月 水	16:20～17:50	WEB(ZOOM)	就職活動直近ガイダンス(CC:学内企業説明会 まわりかた講座+企業研究ノウハウ含む)、	179	マイナビ
22	2月17日	木	16:20～17:50	WEB(ZOOM)	インターンシップ事後研修会(人文学部)	17	各学部 キャリアセンター
					インターンシップ事後研修会(生物資源学部)	15	
23	2月14日～ 2月16日	月～木	終日	WEB(ZOOM)	企業研究会 180社	646	キャリアセンター
24	2月17日	木	13:00～14:30	WEB(ZOOM)	理系学生のための就職活動直前ガイダンス	79	マイナビ
25	3月1日～ 3月3日	火～木	終日	WEB(ZOOM)	学内企業説明会 180社	698	キャリアセンター

(2)ミニ講座(少人数制：個人面接・集団面接・グループディスカッション対策)

- ・令和3年4月～令和4年3月 20回実施 ZOOM・セミナー室他
- ・参加学生数 延べ110人

	実施日	内容	参加数		実施日	内容	参加数
1	4月2日	個人面接対策(オンライン)	6	11	10月25日	個人面接対策(対面)	5
2	4月9日	個人面接対策(オンライン)	5	12	12月22日	個人面接対策(対面)	4
3	4月14日	個人面接対策(オンライン)	5	13	12月24日	グループディスカッション	15
4	6月14日	個人面接対策(オンライン)	3	14	1月27日	個人面接対策(オンライン)	6
5	6月25日	個人面接対策(オンライン)	6	15	2月2日	個人面接対策(オンライン)	5
6	6月28日	個人面接対策(オンライン)	6	16	2月9日	個人面接対策(オンライン)	6
7	7月9日	個人面接対策(オンラインと対面)	6	17	2月18日	個人面接対策(オンライン)	4
8	7月15日	個人面接対策(対面)	3	18	3月9日	個人面接対策(オンライン)	6
9	7月20日	個人面接対策(対面)	5	19	3月18日	個人面接対策(オンライン)	6
10	7月30日	個人面接対策(対面)	3	20	3月23日	個人面接対策(オンライン)	5
							計110

(3)就職相談

- ・キャリアカウンセラー就職相談〔就職相談コーナー〕

【月別・相談内容別件数】

その他(送付状・お礼状・E-mail作成)

延べ数

	就職 相談	進路決定 相談	内定・内 定の相談	履歴書 作成	エントリー シート作成	志望 動機	自己 PR	面接		自己 分析	その他	合計
4月	54	0	18	1	74	2	1	143	0	0	4	297
5月	41	0	8	1	45	0	3	109	0	0	4	211
6月	48	3	10	0	79	0	0	87	0	1	9	237
7月	30	0	3	0	55	0	1	92	0	1	6	188
8月	31	1	7	0	33	1	0	51	0	0	5	129
9月	27	3	7	2	42	3	0	26	0	0	9	119
10月	33	3	2	0	55	0	0	56	0	4	8	161
11月	38	3	5	2	83	1	1	38	0	1	10	182
12月	46	3	2	4	101	0	0	45	0	0	7	208
1月	39	2	4	1	105	5	3	96	0	9	1	265
2月	46	0	9	3	135	1	3	120	0	8	5	330
3月	63	2	7	2	186	3	8	134	1	11	9	426
合計	496	20	82	16	993	16	20	997	1	35	77	2753

4 キャリアピアサポーター

- 令和3年度(前期)資格認定者
 - 上級 7人
 - 初級 21人
 - 令和3年度(後期)資格認定者
 - 上級 5人
 - 初級 51人
- 合計 84人

5 三重創生ファンタジスタ

- 令和3年度資格認定者
 - エキスパート 2人
 - アドヴァンス 55人 (複数分野含む)
- 令和3年度入学意向届提出者 872人

令和 3 年度 就 職 状 況 に つ い て

【地域別就職状況及び就職率】

令和4年5月1日現在

区 分			卒業・修了者	卒業・修了者の内訳										就職率(%) (就職希望者に占める就職者の割合)					
				進学者	臨床研修医	その他	うち未内定者	就職者	三重県	愛知県	東海地方 (静岡・岐阜)	関東地方	近畿地方	その他	令和3年度		(参考) 令和2年度 就職率(%)	(参考) 令和元年度 就職率(%)	
															就職率(%)	対前年度増減(%)			
学部	人 文 学 部	文 化 学 科	105 (78)	8 (3)	()	12 (8)	4 (2)	85 (67)	23 (17)	21 (17)	4 (3)	28 (24)	7 (6)	2 ()	95.5 (97.1)	3.0 (5.3)	92.6 (91.8)	98.8 (98.5)	
		法 律 経 済 学 科	181 (91)	5 ()	()	12 (4)	3 ()	164 (87)	41 (22)	58 (29)	11 (4)	45 (26)	5 (2)	4 (4)	98.2 (100.0)	0.5 (1.2)	97.7 (98.8)	99.4 (100.0)	
		計	286 (169)	13 (3)	()	24 (12)	7 (2)	249 (154)	64 (39)	79 (46)	15 (7)	73 (50)	12 (8)	6 (4)	97.3 (98.7)	1.4 (2.9)	95.8 (95.9)	99.2 (99.3)	
	教 育 学 部	学校教育教員養成課程	203 (116)	9 (4)	()	10 (5)	1 (1)	184 (107)	110 (64)	38 (18)	4 (2)	14 (10)	9 (6)	9 (7)	99.5 (99.1)	1.0 (△ 0.1)	98.4 (99.1)	100.0 (100.0)	
		人間発達科学課程	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	— (—)	— (—)	50.0 ()	— (—)	
	計	203 (116)	9 (4)	()	10 (5)	1 (1)	184 (107)	110 (64)	38 (18)	4 (2)	14 (10)	9 (6)	9 (7)	99.5 (99.1)	1.6 (0.8)	97.9 (98.3)	100.0 (100.0)		
	医 学 部	医 学 科	113 (45)	()	112 (45)	1 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
		看護学 科	82 (78)	3 (3)	()	1 (1)	1 (1)	78 (74)	51 (49)	16 (16)	2 (2)	2 (1)	6 (5)	1 (1)	98.7 (98.7)	△ 1.3 (△ 1.3)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
		計	195 (123)	3 (3)	112 (45)	2 (1)	1 (1)	78 (74)	51 (49)	16 (16)	2 (2)	2 (1)	6 (5)	1 (1)	98.7 (98.7)	△ 1.3 (△ 1.3)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
	工 学 部	機 械 工 学 科	90 (5)	61 (1)	()	2 ()	()	27 (4)	3 ()	8 (1)	1 ()	8 (2)	4 (1)	3 ()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
		電気電子工 学科	88 (2)	58 (1)	()	1 ()	1 ()	29 (1)	11 ()	7 (1)	()	8 ()	2 ()	1 ()	96.7 (100.0)	△ 3.3 ()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
		分子素材工 学科	93 (24)	73 (16)	()	2 ()	()	18 (8)	8 (4)	7 (2)	()	1 (1)	1 ()	1 (1)	100.0 (100.0)	3.6 ()	96.4 (100.0)	96.6 (100.0)	
		建 築 学 科	44 (11)	16 (3)	()	2 ()	()	26 (8)	3 ()	7 (4)	()	9 (2)	6 (1)	1 (1)	100.0 (100.0)	3.1 ()	96.9 (100.0)	100.0 (100.0)	
		情報 工 学 科	62 (3)	33 ()	()	2 ()	1 ()	27 (3)	2 ()	10 (1)	()	15 (2)	()	()	96.4 (100.0)	7.1 (33.3)	89.3 (66.7)	97.3 (100.0)	
		物 理 工 学 科	34 (5)	19 (2)	()	1 ()	()	14 (3)	1 ()	4 (2)	2 ()	5 (1)	2 ()	()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	96.0 (100.0)	
		計	411 (50)	260 (23)	()	10 ()	2 ()	141 (27)	28 (4)	43 (11)	3 ()	46 (8)	15 (2)	6 (2)	98.8 (100.0)	1.5 (2.6)	97.1 (97.4)	98.5 (100.0)	
	生 物 資 源 学 部	資源循環学 科	70 (31)	27 (7)	()	2 (1)	()	41 (23)	10 (6)	11 (6)	5 (3)	11 (7)	4 (1)	()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	95.1 (96.9)	
		共生環境学 科	69 (15)	19 (2)	()	1 ()	()	49 (13)	9 (2)	22 (6)	()	11 (3)	4 (1)	3 (1)	100.0 (100.0)	3.7 ()	96.3 (100.0)	98.2 (100.0)	
		生物圏生命科学 科	1 ()	()	()	()	()	1 ()	1 ()	()	()	()	()	()	100.0 ()	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
		生物圏生命化学 科	78 (44)	35 (15)	()	2 ()	1 ()	41 (29)	10 (7)	10 (6)	2 (1)	9 (6)	8 (7)	2 (2)	97.6 (100.0)	()	100.0 (100.0)	()	
		海洋生物資源学 科	43 (14)	21 (7)	()	2 (1)	1 ()	20 (6)	()	3 (1)	1 ()	5 (1)	5 (2)	6 (2)	95.2 (100.0)	2.9 ()	92.3 (100.0)	100.0 (100.0)	
		計	261 (104)	102 (31)	()	7 (2)	2 ()	152 (71)	30 (15)	46 (19)	8 (4)	36 (17)	21 (11)	11 (5)	98.7 (100.0)	0.5 ()	98.2 (100.0)	97.8 (98.8)	
合 計			1,356 (562)	387 (64)	112 (45)	53 (20)	13 (4)	804 (433)	283 (171)	222 (110)	32 (15)	171 (86)	63 (32)	33 (19)	98.4 (98.1)	1.0 (1.0)	97.4 (98.1)	99.0 (98.6)	
大学院	人 文 社 会 学 科	地域文化論専攻(修士課程)	7 (3)	()	()	3 ()	2 ()	4 (3)	1 (1)	1 (1)	()	()	1 (1)	1 ()	66.7 (100.0)	33.4 (—)	33.3 (—)	— (—)	
		社会科学専攻(修士課程)	5 (2)	()	()	2 (1)	1 (1)	3 (1)	()	()	1 ()	2 (1)	()	()	75.0 (50.0)	△ 25.0 (△ 50.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
		計	12 (5)	()	()	5 (1)	3 (1)	7 (4)	1 (1)	1 (1)	1 ()	2 (1)	1 (1)	1 ()	70.0 (80.0)	3.3 (30.0)	66.7 (50.0)	100.0 (100.0)	
	教 育 学 研 究 科	教育科学専攻(修士課程)	18 (10)	1 (1)	()	1 (1)	()	16 (8)	8 (5)	4 (1)	()	2 (1)	1 (1)	1 ()	100.0 (100.0)	5.6 ()	94.4 (100.0)	100.0 (100.0)	
		教職実践高度化専攻(専門職学位課程)	17 (3)	()	()	2 (1)	()	15 (2)	15 (2)	()	()	()	()	()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
		計	35 (13)	1 (1)	()	3 (2)	()	31 (10)	23 (7)	4 (1)	()	2 (1)	1 (1)	1 ()	100.0 (100.0)	3.4 ()	96.6 (100.0)	100.0 (100.0)	
	医 学 系 研 究 科	医学科学専攻(修士課程)	5 (3)	()	()	()	()	5 (3)	4 (2)	1 (1)	()	()	()	()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (—)	
		看護学専攻(博士課程前期)	8 (7)	2 (2)	()	1 (1)	()	5 (4)	2 (2)	2 (1)	()	()	()	1 (1)	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
		看護学専攻(博士課程後期)	2 (2)	()	()	()	()	2 (2)	2 (2)	()	()	()	()	()	100.0 (100.0)	— (—)	— (—)	— (—)	
		生命医学科学専攻(博士課程)	35 (13)	()	()	3 (1)	()	32 (12)	27 (8)	()	()	1 (1)	2 (2)	2 (1)	100.0 (100.0)	2.7 ()	97.3 (100.0)	97.1 (85.7)	
		計	50 (25)	2 (2)	()	4 (2)	()	44 (21)	35 (14)	3 (2)	()	1 (1)	2 (2)	3 (2)	100.0 (100.0)	2.1 ()	97.9 (100.0)	97.8 (92.9)	
	工 学 研 究 科	機 械 工 学 専 攻	53 (6)	1 ()	()	()	()	52 (6)	7 ()	21 (3)	()	15 (3)	8 ()	1 ()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (—)	
		電気電子工 学 専 攻	49 (1)	()	()	()	()	49 (1)	6 ()	19 (1)	2 ()	18 ()	4 ()	()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	97.6 (—)	
		分子素材工 学 専 攻	58 (9)	()	()	()	()	58 (9)	6 (1)	25 (5)	4 (1)	11 ()	9 (2)	3 ()	100.0 (100.0)	1.8 ()	98.2 (100.0)	100.0 (100.0)	
		建 築 学 専 攻	13 (6)	()	()	()	()	13 (6)	2 (1)	3 (1)	1 ()	4 (1)	2 (2)	1 (1)	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	92.3 (80.0)	
		情報 工 学 専 攻	11 (1)	()	()	1 ()	1 ()	10 (1)	()	2 ()	1 ()	5 ()	1 ()	1 (1)	90.9 (100.0)	△ 9.1 ()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
		物 理 工 学 専 攻	11 ()	()	()	1 ()	1 ()	10 ()	1 ()	2 ()	()	5 ()	2 ()	()	90.9 (—)	△ 9.1 (—)	100.0 (—)	100.0 (—)	
		計(博士前期)	195 (23)	1 ()	()	2 ()	2 ()	192 (23)	22 (2)	72 (10)	8 (1)	58 (4)	26 (4)	6 (2)	99.0 (100.0)	△ 0.5 ()	99.5 (100.0)	99.0 (94.1)	
		材 料 科 学 専 攻	7 (2)	()	()	()	()	7 (2)	3 ()	1 ()	()	2 (2)	()	1 ()	100.0 (100.0)	()	100.0 (—)	100.0 (100.0)	
		シ ス テ ム 工 学 専 攻	3 (1)	()	()	()	()	3 (1)	()	()	()	2 (1)	1 ()	()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (—)	
		計(博士後期)	10 (3)	()	()	()	()	10 (3)	3 ()	1 ()	()	4 (3)	1 ()	1 ()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
	生 物 資 源 学 研 究 科	資源循環学 専 攻	12 (3)	3 ()	()	1 (1)	()	8 (2)	1 ()	2 ()	1 (1)	2 ()	1 ()	1 (1)	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	90.9 (66.7)	
共生環境学 専 攻		18 (5)	2 ()	()	1 (1)	()	15 (4)	2 (1)	3 (1)	()	7 (2)	()	3 ()	100.0 (100.0)	11.1 (20.0)	88.9 (80.0)	100.0 (100.0)		
生物圏生命科学 専 攻		33 (11)	()	()	2 (1)	()	31 (10)	8 (2)	7 (1)	3 (2)	10 (4)	3 (1)	()	100.0 (100.0)	3.8 ()	96.2 (100.0)	95.7 (100.0)		
計(博士前期)		63 (19)	5 ()	()	4 (3)	()	54 (16)	11 (3)	12 (2)	4 (3)	19 (6)	4 (1)	4 (1)	100.0 (100.0)	4.8 (6.7)	95.2 (93.3)	96.4 (91.7)		
資源循環学 専 攻		2 (1)	()	()	1 (1)	()	1 ()	()	()	()	()	1 ()	()	100.0 (—)	(—)	100.0 (100.0)	100.0 (—)		
地 域 イ ノ ベーション 学 科	共生環境学 専 攻	2 (1)	()	()	1 (1)	()	1 ()	1 ()	()	()	()	()	()	100.0 (—)	(—)	100.0 (100.0)	85.7 (100.0)		
	生物圏生命科学 専 攻	4 (1)	()	()	2 (1)	()	2 ()	1 ()	()	()	()	1 ()	()	100.0 (—)	(—)	100.0 (—)	100.0 (—)		
	計(博士後期)	8 (3)	()	()	4 (3)	()	4 ()	2 ()	()	()	()	2 ()	()	100.0 (—)	(—)	100.0 (100.0)	90.0 (100.0)		
	地域イノベーション学専攻(博士前期)	12 (3)	2 ()	()	()	()	10 (3)	4 (2)	3 (1)	()	3 ()	()	()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)		
	計	12 (3)	2 ()	()	()	()	10 (3)	4 (2)	3 (1)	()	3 ()	()	()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)		
地 域 イ ノ ベーション 学 研 究 科	地域イノベーション学専攻(博士後期)	2 (1)	()	()	()	()	2 (1)	()	1 ()	()	()	()	1 (1)	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)		
	計	2 (1)	()	()	()	()	2 (1)	()	1 ()	()	()	()	1 (1)	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)		
合 計			387 (95)	11 (3)	()	22 (11)	5 (1)	354 (81)	101 (29)	97 (17)	13 (4)	89 (16)	37 (9)	17 (6)	98.6 (98.8)	0.8 (1.3)	97.8 (97.5)	98.4 (95.2)	

区 分			卒業・修了者	就職者	就 職 者 の 内 訳																		
					農業、林業 漁業、鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・水 道業	情報通信業	運輸業、 郵便業	卸売・小売業	金融業・ 保険業	不動産業・ 物品賃貸業	学術研究専門・ 技術サービス業	宿泊業、 飲食サービス業	生活関連サー ビス業、娯楽業	教育、学習支援業	医療、福祉	複合サービス事 業	サービス業	公務	その他	
																	(内、教員数)						
学部	人 文 学 部	文 化 学 科	105 (78)	85 (67)	()	4 (3)	15 (10)	1 (1)	15 (12)	()	12 (12)	2 (2)	3 (3)	3 (2)	2 (2)	1 (1)	6 (4)	3 (2)	5 (4)	()	4 (4)	12 (7)	()
		法 律 経 済 学 科	181 (91)	164 (87)	()	4 (2)	16 (9)	()	28 (18)	7 (2)	21 (11)	22 (10)	3 (1)	3 ()	()	1 ()	3 (1)	()	7 (7)	1 (1)	9 (6)	38 (19)	1 ()
		計	286 (169)	249 (154)	()	8 (5)	31 (19)	1 (1)	43 (30)	7 (2)	33 (23)	24 (12)	6 (4)	6 (2)	2 (2)	2 (1)	9 (5)	3 (2)	12 (11)	1 (1)	13 (10)	50 (26)	1 ()
	教 育 学 部	学校教育教員養成課程	203 (116)	184 (107)	()	()	4 (3)	()	6 (2)	2 ()	5 (4)	4 (3)	2 (2)	()	2 (1)	()	116 (66)	107 (61)	16 (15)	()	2 ()	25 (11)	()
		人間発達科学課程	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
		計	203 (116)	184 (107)	()	()	4 (3)	()	6 (2)	2 ()	5 (4)	4 (3)	2 (2)	()	2 (1)	()	116 (66)	107 (61)	16 (15)	()	2 ()	25 (11)	()
	医 学 部	医 学 学 科	113 (45)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
		看護学学科	82 (78)	78 (74)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	75 (71)	()	()	3 (3)	()
		計	195 (123)	78 (74)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	75 (71)	()	()	3 (3)	()
	工 学 部	機 械 工 学 科	90 (5)	27 (4)	()	3 ()	19 (3)	1 ()	1 ()	()	1 (1)	1 ()	1 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
		電 気 電 子 工 学 科	88 (2)	29 (1)	()	3 ()	12 ()	()	4 ()	()	1 ()	()	()	3 (1)	()	()	()	()	()	()	2 ()	4 ()	()
		分 子 素 材 工 学 科	93 (24)	18 (8)	()	1 ()	7 (5)	()	()	()	2 ()	1 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	3 (2)	4 (1)	()
		建 築 学 科	44 (11)	26 (8)	()	18 (7)	1 ()	()	()	1 ()	()	()	1 ()	2 ()	()	1 ()	()	()	()	()	1 ()	1 (1)	()
		情 報 工 学 科	62 (3)	27 (3)	()	()	3 (1)	()	14 (2)	()	2 ()	()	()	3 ()	()	()	()	()	()	()	2 ()	3 ()	()
		物 理 工 学 科	34 (5)	14 (3)	()	()	7 (2)	()	3 ()	()	1 (1)	1 ()	()	1 ()	()	()	()	()	1 ()	()	()	()	()
		計	411 (50)	141 (27)	()	25 (7)	49 (11)	1 ()	22 (2)	1 ()	7 (2)	3 ()	2 ()	9 (1)	()	1 ()	()	()	()	1 ()	8 (2)	12 (2)	()
	生物資源学部	資源循環学科	70 (31)	41 (23)	()	2 (1)	12 (6)	()	2 (2)	()	4 (1)	1 ()	()	1 (1)	()	()	3 (2)	1 ()	()	()	1 (1)	14 (8)	1 (1)
		共生環境学科	69 (15)	49 (13)	()	4 ()	10 (4)	()	4 (2)	3 ()	1 (1)	()	1 (1)	4 (1)	()	()	2 ()	2 ()	()	()	3 (1)	17 (3)	()
		生物圏生命科学科	1 ()	1 ()	()	()	1 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
		生物圏生命化学科	78 (44)	41 (29)	()	()	19 (15)	()	2 ()	1 (1)	7 (4)	()	()	1 (1)	1 (1)	()	2 (2)	1 (1)	()	()	1 (1)	7 (4)	()
		海洋生物資源学科	43 (14)	20 (6)	3 ()	()	6 (2)	()	()	()	3 ()	()	()	2 (1)	()	()	()	()	()	1 ()	()	3 (3)	2 ()
		計	261 (104)	152 (71)	3 ()	6 (1)	48 (27)	()	8 (4)	4 (1)	15 (6)	1 ()	1 (1)	8 (4)	1 (1)	()	7 (4)	4 (1)	()	1 ()	5 (3)	41 (18)	3 (1)
	合 計		1,356 (562)	804 (433)	3 ()	39 (13)	132 (60)	2 (1)	79 (38)	14 (3)	60 (35)	32 (15)	11 (7)	23 (7)	5 (4)	3 (1)	132 (75)	114 (64)	103 (97)	3 (1)	28 (15)	131 (60)	4 (1)
大学院	人 文 社 会 科 学 研 究 科	地域文化論専攻(修士課程)	7 (3)	4 (3)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	4 (3)	3 (2)	()	()	1 (1)	()	()
		社会科学専攻(修士課程)	5 (2)	3 (1)	()	()	1 ()	()	()	()	()	()	()	1 ()	()	()	()	()	()	()	1 (1)	()	()
		計	12 (5)	7 (4)	()	()	1 ()	()	()	()	()	()	()	1 ()	()	()	4 (3)	3 (2)	()	()	1 (1)	()	()
	教 育 学 研 究 科	教育科学専攻(修士課程)	18 (10)	16 (8)	()	()	()	()	1 ()	()	()	()	()	()	()	()	15 (8)	14 (8)	()	()	()	()	()
		教職実践高度化専攻(専門職学位課程)	17 (3)	15 (2)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	13 (2)	13 (2)	1 ()	()	()	1 ()	()
		計	35 (13)	31 (10)	()	()	()	()	1 ()	()	()	()	()	()	()	()	28 (10)	27 (10)	1 ()	()	()	1 ()	()
	医 学 系 研 究 科	医学専攻(修士課程)	5 (3)	5 (3)	()	()	1 (1)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	4 (2)	()	()	()	()
		看護学専攻(博士課程前期)	8 (7)	5 (4)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	5 (4)	()	()	()	()
		看護学専攻(博士課程後期)	2 (2)	2 (2)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	2 (2)	2 (2)	()	()	()	()	()
		生命医科学専攻(博士課程)	35 (13)	32 (12)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	3 (3)	2 (2)	28 (8)	()	1 (1)	()	()
		計	50 (25)	44 (21)	()	()	1 (1)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	5 (5)	4 (4)	37 (14)	()	1 (1)	()	()
	工 学 研 究 科	機 械 工 学 専 攻	53 (6)	52 (6)	()	1 (1)	47 (5)	1 ()	()	1 ()	()	()	()	1 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
		電 気 電 子 工 学 専 攻	49 (1)	49 (1)	()	1 ()	35 ()	1 ()	6 ()	()	1 ()	()	()	3 (1)	()	()	()	()	()	()	2 ()	()	()
		分 子 素 材 工 学 専 攻	58 (9)	58 (9)	()	()	53 (9)	()	1 ()	()	1 ()	()	()	2 ()	()	()	1 ()	()	()	()	()	()	()
		建 築 学 専 攻	13 (6)	13 (6)	()	4 (2)	1 ()	()	()	1 ()	()	()	()	3 (2)	()	()	1 ()	()	()	()	()	2 (1)	1 (1)
		情 報 工 学 専 攻	11 (1)	10 (1)	()	()	5 (1)	1 ()	4 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
		物 理 工 学 専 攻	11 ()	10 ()	()	()	9 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	1 ()	()	()
		計(博士前期)	195 (23)	192 (23)	()	6 (3)	150 (15)	3 ()	11 ()	2 ()	3 ()	()	()	9 (3)	()	()	2 ()	()	()	()	3 ()	2 (1)	1 (1)
		材 料 科 学 専 攻	7 (2)	7 (2)	()	()	3 (1)	()	()	()	()	()	()	1 (1)	()	()	1 ()	1 ()	()	()	1 ()	1 ()	()
		シ ス テ ム 工 学 専 攻	3 (1)	3 (1)	()	1 (1)	2 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
	計(博士後期)	10 (3)	10 (3)	()	1 (1)	5 (1)	()	()	()	()	()	()	1 (1)	()	()	1 ()	1 ()	()	()	1 ()	1 ()	()	
	生 物 資 源 学 科 研 究 科	資源循環学専攻	12 (3)	8 (2)	()	()	3 (2)	()	1 ()	()	4 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
		共生環境学専攻	18 (5)	15 (4)	()	2 ()	7 (2)	()	1 (1)	1 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	1 (1)	3 ()	()
		生物圏生命科学専攻	33 (11)	31 (10)	1 ()	1 ()	12 (3)	1 ()	()	()	5 (3)	()	1 ()	2 ()	()	()	1 (1)	()	()	()	2 (2)	5 (1)	()
		計(博士前期)	63 (19)	54 (16)	1 ()	3 ()	22 (7)	1 ()	2 (1)	1 ()	9 (3)	()	1 ()	2 ()	()	()	1 (1)	()	()	()	3 (3)	8 (1)	()
		資源循環学専攻	2 (1)	1 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	1 ()	()	()	()	()	()	()
		共生環境学専攻	2 (1)	1 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	1 ()	1 ()	()	()	()	()	()
	生物圏生命科学専攻	4 (1)	2 ()	()	()	1 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	1 ()	()	()	
	計(博士後期)	8 (3)	4 ()	()	()	1 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	2 ()	1 ()	()	()	()	1 ()	()	
	地域イノベーション学 研 究 科	地域イノベーション学専攻(博士前期)	12 (3)	10 (3)	()	()	7 (1)	()	()	()	2 (1)	()	()	()	()	()	1 (1)	()	()	()	()	()	()
		計	12 (3)	10 (3)	()	()	7 (1)	()	()	()	2 (1)	()	()	()	()	()	1 (1)	()	()	()	()	()	()
		地域イノベーション学専攻(博士後期)	2 (1)	2 (1)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	1 (1)	1 (1)	()	()	()	1 ()	()
		計	2 (1)	2 (1)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	1 (1)	1 (1)	()	()	()	1 ()	()
合 計		387 (95)	354 (81)	1 ()	10 (4)	187 (25)	4 ()	14 (1)	3 ()	14 (4)	()	1 ()	13 (4)	()	()	45 (21)	37 (17)	38 (14)	()	9 (5)	14 (2)	1 (1)	

(注1)博士課程、博士後期課程の修了者については、単位取得満期退学者を含む。

()内は、女子学生数を内数で示す。

(注2)就職者には雇用形態「1年以上かつ週30時間未満(短時間勤務)」/「1ヶ月以上1年未満」の者も含む。

学生活動センター

令和3年度 活動報告

1 クラブ・サークル活動関係

毎月クラブ・サークル連絡会を開催し、各種注意喚起、連絡を行った。また、新型コロナウイルス感染症への本学指針の変更にあわせて、臨時のクラブ・サークル連絡会を開催した。

3月9日にクラブ・サークルリーダー研修会を開催し、課外活動代表者の育成を図った。

弓道部(個人)、ヨット部(団体)(個人2件)が輝かしい成績を取めたことが評価され、理事表彰を受けた。

2 課外活動施設の改善及び備品等購入助成

* 感染症対策	手指消毒用アルコール設置、除菌シート配布
* 野球場	防球ネット改修工事、内外野境界排水修繕
* テニスコート	人工芝部分張替修繕、ネットポスト修繕
* サッカー・ラグビー場	表面補修工事
* ハンドボール場	コート表面部分修繕
* 第1体育館	カーテンレール取替修繕、移動式液晶ディスプレイ
* 第2体育館	物品棚設置
* 屋内運動場	倉庫引分け吊り戸修繕、移動式スポーツミラー、卓球台
* 課外活動共用施設	女子合宿所襖・障子張替
* その他	自動車部車庫通信ケーブル敷設工事

3 上浜キャンパス自転車登録制の実施

学内外での自転車マナー向上を目指し、上浜キャンパスに乗り入れる学生の自転車に登録シールを貼付する自転車乗り入れ登録制を引き続き実施した。また、学内における自転車の登録状況の調査を実施した。調査の結果、R3年度3月末の自転車登録台総数は、4,397台であり、前年度より121台増えている。

10月1日からは自転車損害賠償責任保険等への加入が義務化されたため、本学HPの在学生用ページ等で周知を行った。

4 交通安全指導等の実施

例年苦情の多い、歩行者・自転車の通学マナーなどの問題について、5月6日から12日までの平日午前8時15分から30分間、朝の通学ラッシュ時における地域の安全・安心のため、交通マナーの向上を図り、交通事故の防止することを目的として、近鉄江戸橋から三重大学正門までの街頭で学生への交通安全指導を実施した。学生総合支援機構教員、学務部職員が、津警察の協力を得て、横断歩道を渡る学生や、自転車による通学生には自転車レーンを通行するように注意喚起を行った。

令和3年度 クラブ・サークル一覧

● 体育系・全学

令和4年3月10日現在

	クラブ名	男	女	計		クラブ名	男	女	計
1	陸上競技部	35	16	51	30	スキューバダイビングサークル	29	19	48
2	水泳部	17	7	24	31	サイクリングサークル	23	0	23
3	硬式野球部	19	2	21	32	合気道・武の道	2	4	6
4	準硬式野球部	21	8	29	33	ラインブレイク(釣り・アウトドア)	46	2	48
5	サッカー部	28	2	30	34	極津(よさこい)	0	20	20
6	ラグビー部	7	1	8	35	WILL(テニス)	4	2	6
7	馬術部	4	11	15	36	Wild Geese(アウトドア)	159	81	240
8	硬式テニス部	13	1	14	37	日本拳法部	5	2	7
9	ソフトテニス部	30	11	41	38	電気自動車研究会	3	0	3
10	男子ハンドボール部	11	2	13	39	サバイバルゲームサークル	30	1	31
11	バレーボール部	15	19	34	40	ITFテコンドーサークル	9	9	18
12	バスケットボール部	17	12	29	41	自然環境リテラシークラブ(NELC)	30	14	44
13	バトミントン部	11	6	17	42	競技スキー部	12	6	18
14	卓球部	29	11	40	43	HOMESTEAL	33	1	34
15	ダンス部	9	28	37	44	蹴る!マッハ(シューマッハ)	33	0	33
16	剣道部	28	12	40	45	NEXT(ダンス)	30	31	61
17	空手道部	5	2	7	46	バドミントンサークル ひらめ	25	5	30
18	少林寺拳法部	8	8	16	47	ドローンサークルTakeOff	4	0	4
19	合気道部	8	8	16	48.準	アメリカンフットボール部	19	4	23
20	ワンダーフォーゲル部	8	1	9	49.準	天狗う(よさこいサークル)	18	30	48
21	自動車部	15	0	15	50.準	Links (ソフトテニス)	25	5	30
22	弓道部	17	9	26	51.準	CHASE (ソフトテニス)	25	5	30
23	ヨット部	9	4	13	52.準	げつバド	12	11	23
24	端艇部(カッター部)	2	2	4	53.準	MBC	30	7	37
25	トライアスロン部	14	4	18	新54.準	三重大大学モルックサークル つMör	4	0	4
26	応援団	6	16	22	新55.準	さーかす	15	13	28
27	ジャグリアーノ(ジャグリングサークル、大道芸)	21	13	34	新56	三重大大学学生フォーミュラチーム	3	0	3
28	ロボコンクラブM3RC	7	0	7					
29	BLUE MARINE(スキンドайビング)	26	16	42		合計(体育系・全学) 56	1068	504	1572

● 体育系・医学部

	クラブ名	男	女	計		クラブ名	男	女	計
1	医学部サッカー部	26	19	45	11	医学部バレーボール部	18	32	50
2	医水野球部	24	8	32	12	医学部卓球部	32	41	73
3	医学部陸上競技部	22	24	46	13	医学部剣道部	12	18	30
4	医学部ゴルフ部	41	32	73	14	医学部弓道部	22	28	50
5	医学部ラグビー部	25	13	38	15	医学部空手道部	12	12	24
6	医学部ハンドボール部	20	22	42	16	医学部競技スキー部	13	5	18
7	医学部ソフトテニス部	13	20	33	17	医学部水泳部	12	13	25
8	医学部硬式庭球部	34	27	61	18	医学部山岳部	42	15	57
9	医学部バスケットボール部	15	12	27					
10	医学部バドミントン部	26	23	49		合計(体育系・医学部) 18	409	364	773

●文化系・全学

	クラブ名	男	女	計		クラブ名	男	女	計
1	管弦楽団	14	43	57	27	Pioneer(アカペラ)	33	34	67
2	吹奏楽団	14	38	52	28	アンビシャスカード(マジック)	19	7	26
3	ギターマンドリンクラブ	9	5	14	29	食農サークル 農らく	16	10	26
4	ギタークラブ	2	4	6	30	てらこや(国際交流サークル)	3	0	3
5	邦楽部	2	12	14	31	Meiku [メイク(地域おこし)]	25	19	44
6	室内楽団	1	5	6	32	つくしんぼサークル(子供ボランティア)	11	64	75
7	写真部	17	23	40	33	mil-poa(手芸サークル)	2	11	13
8	合唱団	10	19	29	34	カフェ・サークル Le Lien	33	59	92
9	ESS	13	12	25	35	ジャズサークル Three Time Jazz Orchestra	3	8	11
10	軽音楽部	54	37	91	36	Bio Record(標本作製サークル)	3	1	4
11	ピアノ同好会 KLUB KLAVIER	19	13	32	37	計算研究会	23	0	23
12	表千家茶道部	5	13	18	38	トラッパーズ	7	1	8
13	裏千家茶道部	2	10	12	39	aquri-M	7	4	11
14	TRPG同好会	21	11	32	40	三重創生ファンタジスタクラブ	22	25	47
15	創作活動サークル リカゲル	13	16	29	41	忍者部	7	7	14
16	囲碁・将棋部	32	3	35	42	ESD-SDGS	4	7	11
17	HELLO FM!!	11	4	15	43	DOT	4	12	16
18	献血推進サークル“ヴァンパイア”	1	9	10	44	競技かるたサークル	7	9	16
19	エレクトーンサークル23-tow・three-	5	14	19	45	YouTubeサークル-ぼnds-	4	1	5
20	万葉旅行の会	6	2	8	46	オカルト研究部	9	6	15
21	音楽サークルB b	45	21	66	新47	法学会	4	0	4
22	かめっぶり	8	11	19	48	美術部	3	10	13
23	劇団アディスト(演劇)	7	11	18	49	BBS(教育ボランティア)	8	26	34
24	ねこサークル	18	25	43	50	コスメサークル ROUGE	0	13	13
25	天文サークル SOLA	29	22	51					
26	ぶるさぁ。(アンザンブルサークル)	16	26	42		合計(文化系・全学) 50	631	743	1374

●文化系・医学部

	クラブ名	男	女	計		クラブ名	男	女	計
1	東洋医学研究会	22	20	42	8	小児科訪問ボランティアサークルぞくよん	4	51	55
2	医学部軽音楽部	15	21	36	9	MUSH(Mie University Students Helper)	8	4	12
3	Session サークル BAG	14	14	28	10	JAZZ BAR	2	1	3
4	ぎゅうめい部	38	37	75	11	すずみえ(慢性疼痛・多職種連携勉強会)	7	2	9
5	U-Cam	0	4	4	12	学生国際協力団体 HeartsTree	1	8	9
6	良き医療者をめざす学生研究会	60	12	72	13	しまうま	4	0	4
7	MIE-project	3	6	9		合計(文化系・医学部) 13	178	180	358

令和3年度クラブ・サークル数 137	男	女	計
	2286	1791	4077

1 相談・援助活動

(1) 来談者に関する統計

	新規相談受付						案内	Co.による 継続面接	その他の 継続対応	合計
	教育	心理	進路	生活	その他	合計				
4月	2	5	2	2	0	11	107	13	45	176
5月	3	5	6	0	0	14	70	15	36	135
6月	5	7	0	1	0	13	37	20	30	100
7月	6	6	1	0	1	14	50	16	26	106
8月	4	4	2	0	0	10	38	14	34	96
9月	2	5	4	1	0	12	81	20	39	152
10月	1	5	0	0	0	6	37	23	18	84
11月	7	6	5	1	0	19	43	26	36	124
12月	3	11	1	0	0	15	43	28	44	130
1月	2	5	2	1	0	10	91	29	48	178
2月	1	2	0	1	0	4	30	27	41	102
3月	2	2	1	1	0	6	42	32	51	125
合計	38	63	24	8	1	134	669	263	448	1514

※数字はいずれも延べ人数を示す。

※「Co.」は心理カウンセラーを指す。

※「新規相談受付」件数の「その他」は、心理テスト・箱庭療法体験、分類困難な相談等の総数を示す。

※「案内」は事務的な案内や比較的軽微な相談等、およびピアサポーターによる相談対応件数の総数を示す。

※「その他の継続対応」は、主にCo.による担当事例に関する面接室外のケースワーク活動等の総数を示す。

(2) ピアサポーターによる支援活動

- * 「新入生なんでも相談会」(Youtube用いたライブ配信による相談会)【4月:オンライン】
- * 「履修登録のススメ」(先輩の1年次の時間割をSNSで公開する企画)【4月、9月:オンライン】
- * 動画の制作およびYouTubeでの公開【7月、9月、11月、1月(計6本)】
- * YouTubeライブによる「ピアサポスタディLIVE」の配信【7月:オンライン】
- * 成城大学主催イベント(サポーターズフォーラム)への参加【11月:オンライン】
- * 「プレぴあのわ」(他大学ピアサポート団体とのオンライン交流会)【12月、2月:オンライン】
- * 10周年記念祝賀会の開催【1月:地域イノベーションホール】
- * Fortune(医学部学生団体)とのコラボレーションによるライブ配信【2月:オンライン】
- * 東京工業大学主催「学生応援フォーラム」への参加【2月:オンライン】
- * ぴあのわ(全国大学ピアサポーター合同研修会)の幹事校担当【3月:オンライン&生物資源学部校舎】
- * 年間50回のミーティング実施【オンライン&対面のハイブリッド】

2 教育・広報活動

(1) 教育活動

授業の担当(いずれも鈴木によるもの)

教養教育	前期	「ピアサポート実践」※副担当に風間惇希講師(障がい学生支援センター)
教養教育	後期	「こころのサポート」
教養教育	後期	「学生生活支援実践」
教養教育	後期	「ピアサポート実践」※主担当は風間惇希講師(障がい学生支援センター)

(2) 広報活動

①教職員研修(FD・SD)

医学部看護学科FD

「精神的に不安定な学生への対応 ―実習に関連した話題を中心に―

鈴木が講師を担当

【令和4年3月7日】

②広報

- ・大学ホームページを用いたピアサポート活動に関する広報
- ・ユニパ(全学配信メール)を活用した学生に対する相談室広報

3 研究・研修・講演・地域連携

(1) 研究

- ・日本ブリーフサイコセラピー学会 第31回オンライン大会ワークショップ「使える!NLP講座」に鈴木が参加。
【令和3年5月9日:オンライン】
- ・日本学生相談学会第39回大会(オンライン)に鈴木が参加。【令和3年5月15日-16日】
- ・日本ブリーフサイコセラピー学会 第31回オンライン大会に鈴木が参加 【令和3年6月26日-27日】

(2) 研修(および学生相談に関する情報収集)

- ・令和3年度「学生生活にかかる喫緊の課題に関するセミナー」(主催:日本学生支援機構)に鈴木が参加。
【令和3年12月10日:オンライン】
- ・第55回全国学生相談研究会議webシンポジウム(主催:全国学生相談研究会議)に鈴木が参加。
【令和4年1月24日:オンライン】
- ・第15回学生応援フォーラム(主催:東京工業大学)に鈴木が参加。
【令和4年2月28日:オンライン】

(3) 講演・地域連携

- ・三重県立看護大学 ハラスメント防止等に係る研修会 【学生対象】 講師(鈴木)
テーマ「大学生とハラスメント」 【令和3年4月5日】

令和3年度 学生相談センタースタッフ

センター長	野崎 哲哉	(学生総合支援機構副機構長:副学長)	カウンセラー	藤川 和	(非常勤)
副センター長	鈴木 英一郎	(学生総合支援機構 講師)		高崎 順子	(非常勤)
兼任教員	片岡 三佳	(医学部 教授)		伊藤 拓	(非常勤)
	宮崎 多恵子	(生物資源学部 准教授)		林 真寿美	(非常勤)
			インテーカー	浮田 めぐみ	(事務補佐員)

障がい学生支援センター

令和3年度 障がい学生支援センター活動報告

1 障がいのある学生に関する相談支援

表1に2021年度の障がい学生に関する相談件数及び対応人数を示した。相談件数は322件であり、延べ人数は466名、実人数は122名であった。そのうち、教職員からの相談件数は158件、延べ人数は241名、実人数は66名であった。障がいのある学生の延べ人数は153名、実人数は30名であった。

表1 令和3年度障がい学生に関する相談件数及び対応人数

	相談対応件数				相談者延人数				相談者実人数			
		障がい学生	教職員	その他		障がい学生	教職員	その他		障がい学生	教職員	その他
4月	34	20	17	4	49	20	25	4	29	10	15	4
5月	14	9	7	2	23	9	12	2	13	4	7	2
6月	8	5	2	2	12	5	4	3	9	2	4	3
7月	17	14	2	1	17	14	2	1	8	5	2	1
8月	20	12	7	1	20	12	7	1	9	4	4	1
9月	55	18	31	15	45	18	42	15	21	5	12	4
10月	26	11	14	3	33	11	19	3	10	8	11	2
11月	21	10	7	5	23	10	8	5	10	5	4	1
12月	33	11	21	11	53	11	31	11	22	6	12	4
1月	41	19	26	10	80	19	51	10	36	8	23	5
2月	10	5	5	1	11	5	5	1	10	5	4	1
3月	43	19	19	16	70	19	35	16	29	6	15	8
合計	322	153	158	71	466	153	241	72	※122	※30	※66	※26

※実人数は、令和3年度の年間実人数であり、合計で示さない。

※障がい学生：障がいの可能性を考慮しながら対応している学生を含む。

※その他：保護者、学外機関担当者

2 現場への支援機器(AT)導入を目的とした「ATライブラリー」の創設及び充実

- ・ATライブラリーに係る各種支援ツールの整備を行い、支援ツール一覧冊子の作成やホームページの改修等を行った。

3 「障がい学生支援調整会議」の機能強化・拡充

障がい学生支援センターと各部局選出の監督者及び学務担当係長等によって構成される「障がい学生支援調整会議」を5回実施した。本会議の成果は以下のとおりである。

- ・合理的配慮の実施状況に関するモニタリング調査を学生及び教職員に実施し、状況把握及び事例の共有、蓄積を行った。
- ・第1回～第5回の会議において、部局における支援状況についての情報交換を行った。第5回の会議においては、各学部からの事例報告を行い、共有された情報をもとに、来年度の障がい学生支援の在り方について協議した。
- ・障がい学生支援調整会議の運営等に関する申合せを策定、施行した。
- ・これまでに障がい学生支援調整会議で共有された支援事例やモニタリング調査結果等について、関係者で情報共有できるシステムを学内のクラウドサービス上に整備した。
- ・障がい学生支援センターで作成した「三重大学障害学生支援ハンドブック」の掲載内容について、意見交換を行った。

4 学内関係部局および外部関係機関等との情報交換の推進

- ・信州大学学術研究院教育学系教授の高橋知音先生を招聘し、「発達障がいに関する基礎知識及び支援・配慮のポイント」というテーマで障がい学生支援セミナー2021を開催した。セミナーの参加者は60名(学内51名、学外9名)であった。セミナー後、第5回障がい学生支援調整会議に講師の高橋先生にご出席いただき、事例報告に対するコメントや各学部の課題等に関する助言を頂いた。(2月21日)
- ・障がい学生支援センター、キャリアセンター、学生相談センター、ハローワーク津、ハローワーク松阪、三重県自閉症・発達障害支援センター、三重県障害者職業センター、若者就業サポートステーションみえの担当者が参加する「障がいのある学生の就職支援に関する連携会議」を2回実施し、障がい者の就労支援に関する現状共有及び支援に関する意見交換を行った。(9月3日、2月22日)
- ・三重県教育委員会の高等教育・特別支援会議にて、研修「大学における障害学生支援―発達障害に焦点をあてつつ―」を行った。(10月1日)
- ・全国高等教育障害学生支援協議会(AHEAD JAPAN)第8回大会(オンライン)に参加し、障がい学生支援に関する研修及び情報収集を行った。(7月23日)
- ・アクセシビリティリーダー育成協議会の第49～52回総会が開催され、今年度のアクセシビリティリーダー育成プログラムに関する検討や参画する各大学等の支援状況に関する意見交換を行った。(6月18日、9月17日、12月20日、3月4日)
- ・株式会社イフの営業担当者と障がい学生支援センター教員、キャリアセンターのキャリアカウンセラーによる障がい学生の就職支援に関する情報交換を行った。(6月22日)
- ・発達障害者を中心とした就労支援を行う株式会社エンカレッジの窪貴志代表取締役と障がい学生支援センター教員、キャリアセンターのキャリアカウンセラーが集まり、三重大学における障がい学生の就職支援について現状や課題を共有した。(11月27日)
- ・静岡の大学に在学する発達障がいのある学生(グレーゾーンを含む)が参加した株式会社エンカレッジによる「オンラインしごと体験」プログラムにオブザーバーとして出席し、プログラムに参加する学生の様子の観察や発達障がい・グレーゾーンの学生の就職支援に関する意見交換を行った。(3月11日)

5 ACS学生委員会に所属する学生サポーターの支援技能を養成

- ・教養教育において「障がい学生支援実践」の授業を開講した。受講者は45名であった。
- ・ACS学生委員会を組織し、19名の学生が委員会活動に参加した。
- ・ACS学生委員会や障がい支援に関する情報を発信する壁新聞企画「ACSのねえ知ってる?」の第1号(10月)・第2号(1月)を作成、発行した。
- ・学生が悩み等をノートに書き込み、ACS学生委員会のサポーター学生がその投稿に答えていく企画「お便りノート」を実施した。
- ・日本福祉大学・PEPNet-JAPANが主催する「聴覚障害学生支援の基本に立ち返って」に参加し、聴覚障がいに関する基礎知識の習得やノートテイク・パソコンテイクスキルの習得に取り組んだ。(講義編:2月22日、実技編:3月3日)
- ・障がい支援に関する知識習得を目的として、アクセシビリティリーダー育成協議会が提供するアクセシビリティリーダー育成プログラムのオンライン講座を受講した。今年度は3名(教員1名、学生2名)が第16期アクセシビリティリーダー認定試験(2級)を受験し、全員合格した。

6 その他

- ・障がい学生支援センター教員が東海地区障害学生支援フォーラムの役員として役員会に出席した。三重大学が開催校となっている「東海地区障害学生支援フォーラム第10回大会」に関する開催時期や形態等の協議、各大学での支援状況や課題に関する意見交換を行った。(11月26日、3月14日)
- ・次年度に公開予定の「三重大学障害学生支援ハンドブック」の作成、同じく次年度から実施予定の障がい学生支援に関するe-learningの教材作成を行った。

三重大学障がい学生支援セミナー2021 実施報告

令和4年2月21日(月)に行った障がい学生支援セミナー2021について下記の通り報告する。

1 参加者内訳

(名)

学外関係者	9(4)
学内関係者	51(30)
計	60(34)

※数字は参加人数()はアンケート回収数

2 学内参加者内訳

(名)

	人文	教育	医	工学	生物	イノベ	教養	その他	計
教員	4	7	2	2	8	0	3	6	32
事務	2	1	1	0	3	0	1	11	19
計	6	8	3	2	11	0	4	17	51

※学部以外のセンター等については、事務局へ含む。

3 アンケート結果

以下、セミナー時に行ったアンケート結果(回収数34名)について記載する。

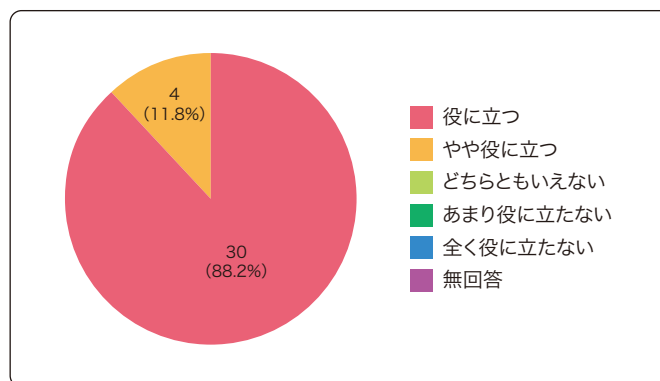
①セミナーを知ったきっかけ(複数回答可)

学内会議	ポスター	E-mail	友人知人	その他	無回答	回答者数
11	0	20	0	5	0	34

②講演内容が、今後の学生対応にどれくらい役に立つと思うか

発達障がいに関する基礎知識と支援・配慮のポイント(信州大学 高橋知音 先生)

役に立つ	やや役に立つ	どちらともいえない	あまり役に立たない	全く役に立たない	無回答	計
30	4	0	0	0	0	34



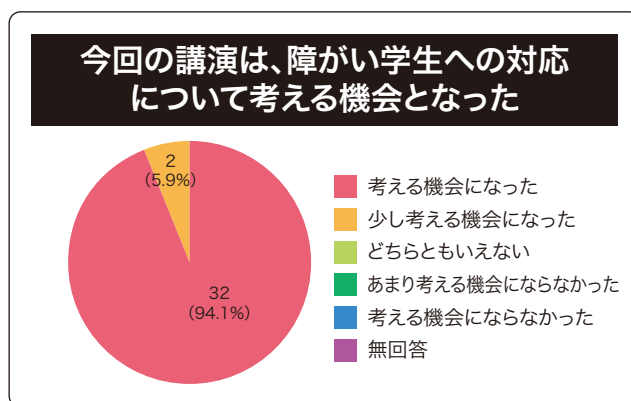
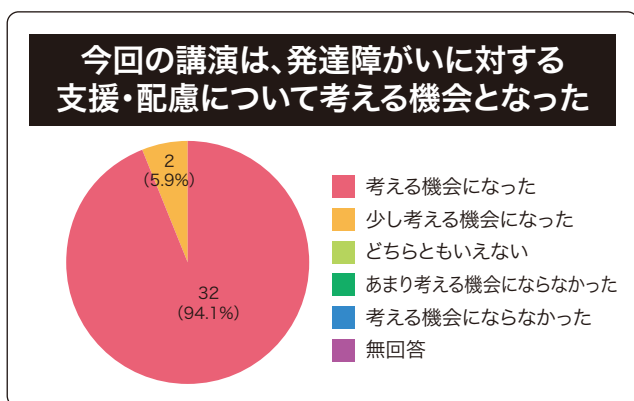
③今回の講演について

・今回の講演は、発達障がいに対する支援・配慮について考える機会となった

考える機会になった	少し考える機会になった	どちらともいえない	あまり考える機会にならなかった	考える機会にならなかった	無回答	計
32	2	0	0	0	0	34

・今回の講演は、障がい学生への対応について考える機会となった

考える機会になった	少し考える機会になった	どちらともいえない	あまり考える機会にならなかった	考える機会にならなかった	無回答	計
32	2	0	0	0	0	34



④講演についての意見や感想など 14件

【講演内容に関する感想や意見】

- ・動画の紹介や、丁寧な説明でわかりやすく理解することができました。実習や授業場面での考え方も今後の対応に生かしたいと思います。
- ・新しい気づきがありました。ありがとうございました。
- ・卒論のある程度を学生の裁量に任せて行ってきましたが、それが面白いところでもありましたが、よく学生を見て対応しなければと最近は感じています。
- ・関心のある教員だけではなく、全ての教員が知っておくべき知識だと思いました。全教職員むけの e-learning を考えておられるとのこと、期待しております。
- ・御高名な高橋先生のお話を聞かせていただき、感謝しています。
- ・とても分かりやすくお話いただき、ためになりました。ありがとうございました。
- ・勉強になりました。ありがとうございました。
- ・高橋先生がおっしゃっておられたように、自分から相談できない、本来困るべき状況で困っていない学生は、一定程度、在籍していると思われますので、もう少し多くの先生方にご参加いただきたい内容であったと思います。
- ・教育的対応という概念が役に立ちそうです。
- ・基本的な内容から実務における具体例まであげていただき、非常に分かりやすくてためになりました。今後の学生対応に活かしたいと思います。本日は貴重な機会をありがとうございました。
- ・具体的な発達障がいと合理的な配慮の仕方を結びつけてお話をいただき、大変学びになる会でした。ありがとうございました。
- ・障がい学生支援の具体的な事例とその対応についてもお聞きしたいです。
- ・大変勉強になりました。創造性や分析力はあっても、感想文が書けない学生がおり、思案しておりました。今後は、「感想」という定義を補足説明しようと思います。有難うございました。
- ・45分はあっという間で、もっと高橋先生のお話を伺いたかったです。研修のご案内、ありがとうございました。



SA(スチューデント・アシスタント)

SA(スチューデント・アシスタント)の 取り組みをふりかえって

－ SAとして活躍する先輩から学ぶ －

SA(Student Assistant)の取り組みとは、キャリア・ピアサポーター上級資格を取得した学生を活用する学生支援施策である。本学では、仲間が仲間を支援するというこの相互支援の取り組みの本質は、“大学という一つの社会の中で様々な体験をすることは自身のキャリア(生き方)に寄与する”という観点から「キャリア・ピアサポーター」と呼称し、学生個々人のその人らしさを活かした、ピア(仲間)を支援することを推進している。キャリア・ピアサポーターには、初級資格と上級資格が設けられている。学生が支援に関連する様々な知識・技能・態度を高めることのできる講義・演習を一定数受講することで、これらの資格を取得できるという資格教育プログラムが設置されている。

キャリア・ピアサポーター上級資格を取得するまでに、学生は、他者に対する学生支援(ファシリテーション)を実践的に学ぶ講義・演習科目(学習支援実践)や、他者に対する心理的支援を実践的に学ぶ講義・演習科目(こころのサポート)を必修科目として、単位取得しなくてはならない。SAとなる学生の力量を保証するため、他者への配慮や支援方法などについて学ぶことになっている。SAとして、ただの授業準備や配布物の配布補助ではなく、受講生のグループディスカッションへの参加を促すファシリテーションや、受講生の学びをより深めるための支援が望まれている。本学では、教職員ではなく、学生同士、先輩だからこそできる学習支援、学生支援を目指しているのである。

学習支援実践という授業科目は、他者に対する学習支援実践を学びながら、先輩SAの学習支援やサポートを受けるという構造になっている。先輩SAからの学習支援やサポートを受けながらも、その支援の方法や内容等をモデルとして学ぶことができるのである。

令和3年度は、学内の先生方のご理解のもと12科目でSA総数17名を活用した授業が行われた。SAを活用することによる授業の受講生への効果、さらにはSA自身への効果を先生方が感じてくださっていることを願いたい。

●Table1 令和3年度SA採用者及びSA活用授業

期間	授業名	学部	学年	人数
前期	地域の仕事を知る	人文	4年	1名
	こころのサポート	教育	4年	1名
	こころのサポート	人文	3年	1名
	学習支援実践	人文	3年	2名
	ピアサポート実践	教育	3・4年	2名
後期	留学生支援実践	人文・教育	2・4年	2名
	障がい学生支援実践	教育	3年	1名
	ピアサポート実践	人文・教育	3・4年	2名
	学生生活支援実践	人文・教育	3・4年	2名
	企業マインドの醸成	人文	4年	1名
	こころのサポート	人文	2年	1名
	こころのサポート	人文	3年	1名
合計				17名

\\ これからの人生に役立つスキル、身につけてみませんかー!! \\

キャリア・ピアサポート(CPS) 資格取得ガイド

2022年度
入学者用



三重大大学の学生も
キャリア・ピアサポート
資格取得を目指して！

STEP ① キャリア・ピアサポート資格を知る

三重大大学では「学生自身の活動を通じた学生支援」を積極的に奨励する「キャリア・ピアサポーター」養成のため、所定の科目を履修し、研修を受けた学生に対して、学内資格である『キャリア・ピアサポート(CPS)資格』を認定しています。

『キャリア・ピアサポート(CPS)資格』取得者は

- 学生生活についての相談活動
- 学生同士の交流、大学活性化又はキャリア支援を目的としたイベントの企画実施
- 就学支援活動の企画実施
- 学内機関又は学生団体とのコラボレーションの企画実施

といった三重大大学の活性化にもつながる様々な活動に参加することができます！

また、自ら行動する力が身につき、学部・学年を越えた仲間と出会うきっかけになります！

皆さんの申請、お待ちしております！



STEP ② 資格取得の事前申請をする

資格事前申請方法

Moodle『キャリア・ピアサポート資格取得コース(2022年度)』のコース登録が必要になります。

※コース登録された場合、資格申請の為に、成績及び単位取得状況について確認されることに同意したとみなさせていただきます。

コース登録はこちら



STEP ③ 所定の科目を履修・研修を受ける

資格取得のためには、下記必須科目の履修と研修を受ける必要があります。

必修科目

●キャリア教育入門

+

研 修

- ①e-learning受講(30分)+確認テスト
- ②グループワーク(90分程度)に参加・発表

認定された方に資格認定証を授与！

資格認定者の発表は、前期末申請については10月上旬、後期末認定については次年度4月上旬を予定しています。



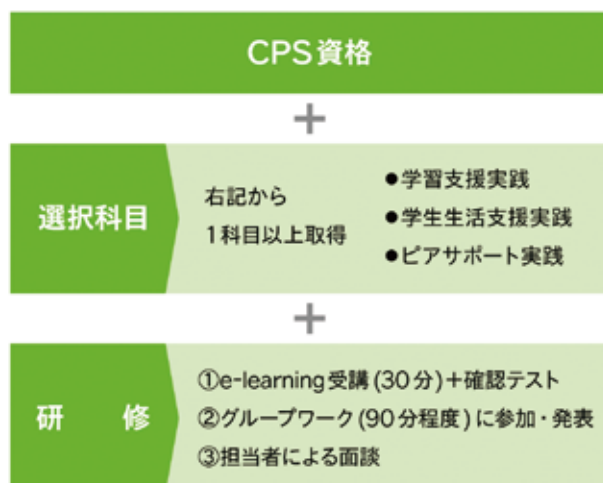
履歴書に書ける資格です。
資格を取得し、活動した話は
就職活動の面接でも
活かすことができます！

裏面も要チェック ▶

**SPECIAL
STEP!!**

キャリア・ピアサポート (CPS) 資格を取得した学生は **スチューデント・アシスタント (SA) 資格 に挑戦できます!**

資格取得のためには、下記選択科目の履修と研修を受ける必要があります。



スチューデント・アシスタント
資格取得者にも資格認定証を授与します!



資格取得を通して社会人としての「実践力」を身につけよう!

大学までの勉強では知識の獲得が最も重視されますが、実際に社会に出てみれば、知識だけでなく、獲得した**知識に基づいた実践のための応用力が求められる**ようになります。しかしながら、こうした能力を身につけるためには、ただ漫然と授業を受けるだけではなく、学生時代に様々な取り組みに主体的に参加することで、経験を通して積み重ねていかなければなりません。三重大学では、「生きる力」の養成や自身のキャリア形成につながる様々な授業科目を用意しています。また、所定の科目を履修し、研修を受けた学生に対しては、「**キャリア・ピアサポート (CPS) 資格**」、および「**スチューデント・アシスタント (SA) 資格**」を認定します。

「キャリア・ピアサポート (CPS) 資格」を取得した学生は、学生が同じ学生を横の関係で支援する「なんでも相談活動」や、各種修学 (授業) 支援、アカデミックフェアやキャリアイベントといった各種イベント企画、また「スチューデント・アシスタント (SA) 資格」を取得した学生は、授業補助等で教員・学生のサポート役を担うなど、三重大学の活性化にもつながる様々な活動に参加してもらうことで、その力を発揮することができます。さらには、こうして学内の様々な現場を「職場」として体験することを通して、就職活動に不可欠な“対人関係能力”や“コミュニケーション能力”といった能力を身につけていくこともできるでしょう。

あなたも、「キャリア・ピアサポート (CPS) 資格」「スチューデント・アシスタント (SA) 資格」を取得して、一緒に三重大学を盛り上げていきませんか。

そして、**あなた自身の「実践力」を伸ばしていきませんか。**



キャリア支援チームは
保健管理センターの
近くだよ!

三重大学学生総合支援機構
キャリアセンター (キャリア支援チーム)
総合研究棟II 1階 開室時間: 平日8:30~17:15

TEL 059-231-5396
E-mail syusyoku-ce@ab.mie-u.ac.jp
<https://www.mie-u.ac/life/peer/license>





学生総合支援機構主催行事

学生支援サミット2021

1 学生支援サミット2021 概要

趣 旨

年に一度、三重大大学の学生・教員・職員がともに大学をより良いものとして行くために協働して議論を行う機会として開催している。本年度は、テーマを「with コロナ時代に求められる『人の繋がり』の形 in 三重大大学」に設定し、with コロナ時代に合わせた人と人の繋がりがどうあるべきかについて考える機会としてサミットを開催した。

目 的

- ①withコロナ時代における感染予防対策の形、また今だからこそ必要な人と人が寄り添い繋がるためのアイデアについて、学生と教職員が主体的に検討する機会とする。
- ②三重大大学での学習や生活、大学運営がより生き生きとした望ましいものにできるよう、学生と教職員が協働する意識を育む。

テーマ・内容

『with コロナ時代に求められる『人の繋がり』の形 in 三重大大学』を今年度のテーマとした。まず、現在の新型コロナウイルス感染症の状況や拡大防止に関する本学の行動規範や指針等の対策、人の繋がりにまつわる現状や課題について共有する。その後、学生と教職員を組み合わせたグループに分かれ、グループディスカッションを行った。昨年度から今年度前期までのオンラインを中心とした大学生活の経験を踏まえ、①「人の繋がり」というテーマについて、三重大生や教職員の困りごとや課題は何か、②その困りごとや課題の原因(要因)は何か、③(それらを踏まえた上で)コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを気軽に取れるようになるための企画や仕組みの提言について、考えてもらう。ディスカッションの中で出た意見やアイデアはグループごとにパワーポイントにまとめ、その後各グループからのプレゼンテーション、優秀グループの投票を行った。

主 催

三重大大学 学生総合支援機構

日 時

令和3年9月29日(水)13:00～16:00 Zoomにて開催

参加申込者

学生については、各学部への参加依頼等を通して募集した結果、合計51名の参加エントリーがあった。教員については、各学部への参加依頼や学内の会議・委員会での周知、ホームページ等での企画周知を行った結果、計11名のエントリーがあった。職員については、学生支援チームより依頼を行い、計12名がエントリーした。

当日のプログラム

13:00～13:10(10分)	開会の挨拶 教育担当理事・学生総合支援機構長 鶴原清志
13:10～13:20(10分)	学生支援サミットの活動内容の説明
13:20～14:30(70分)	自己紹介・グループワーク 【グループワーク課題】 昨年度から今年度前期までのオンラインを中心とした大学生活の経験を踏まえ、①「人の繋がり」というテーマについて、三重大生や教職員の困りごとや課題は何か、②その困りごとや課題の原因(要因)は何か、③(それらを踏まえた上で)コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを気軽に取れるようになるための企画や仕組みの提言についてのアイデアを考える。グループでまとめた意見やアイデアをもとにパワーポイントを作成する。
14:30～15:45(75分)	各グループのプレゼンテーション(4、5分×15グループ)+優秀グループの投票
15:45～15:55(10分)	総括コメント 教育担当理事・学生総合支援機構長 鶴原清志
15:55～16:00(5分)	閉会の挨拶 学生総合支援機構副機構長 野崎哲哉

2 当日の参加状況

学生・教員・職員の参加状況

学生支援サミット当日の参加者数は、学生52名、教員24名、職員19名の、計94名であった(表1)。参加学生の学部内訳は表2にまとめた。

当日のグループ構成

当日は参加者の所属学部や部署等を考慮し、以下の全15グループを編成した。

グループ 1:人文学部グループ①(学生3名、教職員2名)

グループ 2:人文学部グループ②(学生3名、教職員2名)

グループ 3:人文学部グループ③(学生3名、教職員2名)

グループ 4:教育学部グループ①(学生4名)

グループ 5:教育学部グループ②(学生4名、教職員2名)

グループ 6:教育学部グループ③(学生3名、教職員3名)

グループ 7:医学部グループ①(学生5名)

グループ 8:医学部グループ②(学生4名、教職員2名)

グループ 9:医学部グループ③(学生3名、教職員3名)

グループ10:工学部グループ①(学生4名)

グループ11:工学部グループ②(学生3名、教職員2名)

グループ12:工学部グループ③(学生4名、教職員2名)

グループ13:生物資源学部グループ①(学生4名)

グループ14:生物資源学部グループ②(学生5名、教職員1名)

グループ15:生物資源学部グループ③(学生2名、教職員2名)

表1 学生支援サミット2021参加者数

属性	参加者数
学生	51名
教員	24名
職員	19名
合計	94名

表2 参加学生の内訳

学部・研究科	参加者数
人文学部	9名
教育学部	11名
医学部	12名
工学部・工学研究科	10名
生物資源学部	9名
合計	51名

3 グループ発表

各グループの発表内容

グループ1:人文学部グループ①

現在の課題として、勉強以外のことや部活動等の情報を得ることが難しいということに焦点をあてた。オンラインの場合、(教員の目があると)形式的なやりとりだけになってしまったり、大学生活に関する情報は得られるが目的周辺の情報は得られにくい、様々な可能性が狭まってしまうという課題がある。情報取得のために、学生は積極的・主体的に動く必要があるがなかなか難しい。

そこで、まずはフォーマルになりがちなオンラインを、対面と同じように気軽にやりとりできるような場にする工夫が必要であると考えた。また、「余白の情報を求めて」とあるように、目的周辺に広がる興味のない情報(例:部活・ゼミ・授業・学内施設 etc.)が自動的に入ってくるようなプラットフォーム、あるいはそれらの分野に関わりのある人と気軽にやりとりができるプラットフォームやイベントを作ることを提言する。

卒業実習ゼミ①2021
2021.8.29 18:13:00~18:00

人文学部グループ①
プレゼンテーション

余白の情報を求めて

コロナ禍の今、「人の繋がり」というテーマについて、三重大生や教職員は何に困っているか

【学生】

- ・勉強以外で得られる部分がほぼない
- ・部活動がかなり制限される
- ・周りの情報を得ることが難しい

【教職員】

- ・在宅の人との連携が取りづらい
- ・(逆に主体的に動く良い機会なのではないか)
- ・オンラインでは生徒からの反応が分かりづらい

「人の繋がり」にまつわる困り事の原因・要因とは何か

- ・対面とオンラインではコミュニケーションの取り方が異なる
- ・情報をくれる人と接する機会がない、受動的に情報が得られない(部活の勧誘など)
- ・目的周辺の過程、余白がないため、可能性が狭まる

→主体性、受動的に情報を得られる場を重要視したい

(実際の困りごとを踏まえて)コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを取れるようになるための企画や仕組みの提言!

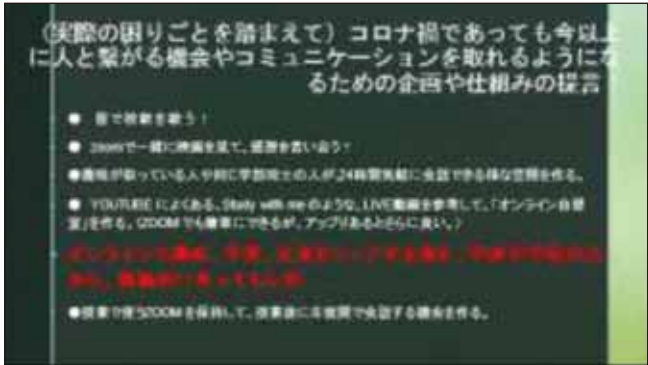
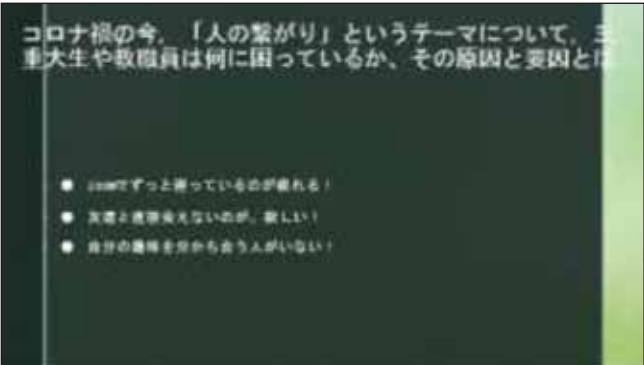
- ・フォーマルになりがちだが、オンラインを気軽に活用する
- ・部活など、興味のない情報も得られるようなシステム

何となく立ち寄ってたまたま望んでいない情報も得られたというシステム(電子辞書と辞書の違い)
ふらっと寄って得られる情報、ワンストップ

グループ2:人文学部グループ②

現在の課題として、授業等でずっと座っていて疲れる、友だちと会えないのが寂しい(休み時間もなく話せない)、趣味の場に行けずに趣味があう人と会えないし探せない状況があると考える。

提案として、(1)三重大生としての一体感がないことからみんなで校歌を歌う機会を作る、(2)一緒に映画を見て感想を言い合って交流する機会、(3)オンライン自習室を作ることを提言する。それらが実現する場を大学や学部積極的に作ってもらいたい。また、授業後に Zoom を閉じず、先生だけが抜けて学生同士で喋れる機会を作るのはどうか。



グループ3:人文学部グループ③

現在の課題として、特に新入生のオンラインでつながるための準備が大変であることが挙げられ、withコロナ時代に合わせたオリエンテーションがないことも要因のように考えられる。また、軽いコミュニケーションやついで・余白のつながりが持ちにくいことも課題として挙げられ、オンライン環境下では区切りがはっきりしすぎ・偶然の出会いが生まれにくいことが要因として考えられる。

それらを解決するための提言として、まずは最初からオンラインは難しいことから、「オンラインでつながる」ための準備を対面でサポートすることが必要ではないか。また、連絡手段は分かりやすい形が望ましく、例えば振り分け設定をしっかりとした上でメールで連絡する等の形が考えられる。加えて、学生同士が自由かつ気軽につながることができる授業環境作りやオンラインキャンパスを設置することも重要ではないかと思う。

学生生活サミット2021
2021.8.29 (日) 13:00~14:00

人文学部グループ3 プレゼンテーション

コロナ禍の今、「人の繋がり」というテーマについて、三重大生や教職員は何に困っているか

【学生】

- ・ オンラインでつながるための準備（Wordle・Zoom）特に新入生
- ・ 軽いコミュニケーション（ゼミの「ついで」など）がない
- ・ ゼミなどで話が発展しにくい
- ・ 知り合いじゃない人とつながりにくい（上級生も）

【教職員】

- ・ 連絡がとりにくい（どんな方法なら確実に伝わる？）
- ・ 学生の反応が分かりにくい

「人の繋がり」にまつわる困り事の原因・要因とは何か

【学生】

- ・ オリエンテーションがなかった（新入生）
- ・ オンライン授業は時間通りすぎる、区切りがはっきりしすぎ
- ・ 偶然の出会いが生まれにくい

【教職員】

- ・ 連絡手段がメールだけで一方的／双方向でない
- ・ メールが多くなると重要な情報が埋もれやすい

（実際の困りごとを踏まえて）コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを取れるようになるための企画や仕組みの提言！

- ・ 新入生は、3回を避けて対面で「オンラインでつながる」までの準備をサポート
Wordleの使い方、Zoom等の使い方、接続など
- ・ 新しい連絡手段は難しい
→メールの振り分け設定をしっかりとする（ガイドンスもあり）
- ・ 上級生と下級生が一緒に参加する場をつくる
授業、オンラインキャンパス、サポーター
バーチャル型の会議アプリの活用

グループ4:教育学部グループ①

現在の課題として、特に1,2年生は最初から大学に来ることが少なかった。そのため、同じ学部・学科でしか友人を作る機会がなく、交流があってもその場限りのものが多く、孤独感も感じていた。オンラインツールでは不自由さもある。

そこで、自分の好きなことを語り合える機会を作ることを提言する。好きなことを話すときが楽しいし、孤独感も和らぐ。学部を越えた交流もできると良い。学生だけでなく教職員も参加する機会となったり、可能であれば対面を取り入れた継続的な形が望ましい。

教育学部グループ① プレゼンテーション

宇衣麻美キョウコ
2021.5.20(水) 12:00-12:30

コロナ禍の今、「人の繋がり」というテーマについて、三重大生や教職員は何に困っているか

【学生】

- ・友達と同じ学科内にしかいない。
- ・学部・学科を超えた友達を作ることが出来ない。
- ・孤独感を感じる。
- ・好きなものが同じ人との交流がほしい。
- ・zoomは話しにくい。対面がいい。



「人の繋がり」にまつわる困り事の原因・要因とは何か

【学生】

- ・コロナウイルスの影響によって対面授業が減った。
- ・三重大は総合大学であるのに、学部間の交流が少ない。
- ・授業のzoomでは、その場限りの関係になってしまう
- ・zoomではビデオオンが出来ない状況であったり、ビデオをオンにしたい人が一人でもいるとブレイクアウトルームにいる人全員がビデオオフにしまい話しづらい。



【実際の困りごとを踏まえて】コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを創れるようにするための企画や仕組みの提案！

「学生支援サミットのようなイベントの機会を作り、自分の好きなことを語りあう」

- ・好きなことを話しているときが一番楽しい
- ・人と話しているときに孤独感が和らぐ



～内容～

グループを作り、順番に自分の好きなことについて話していく

- ・学生支援サミットのような形式で行う
- ・時間を設定し、グループを入れ替える
- ・生徒だけでなく教職員の方々も
- ・可能であれば対面で定期的に行う

得られるであろう効果

- ・自分の好きなことを話す→満足感、精神安定
- ・人との交流（共通の趣味を持つ人とかかわり）
- ・他の学部・学科の人との交流により、視野が広がる。
- ・好きなことが共通であれば楽しいし、盛り上がる。話も広がる。

注意事項

- ・対面で行う場合には、ルールを守ること
- ・話を聞く際には、興味のないそぶりをしない

グループ5:教育学部グループ②

現在の課題として、これまであった縦のつながりがなくなったり、教育実習の経験ができない、授業内容を自分に引き付けて考えることが難しい、教職員から見ても大学らしくない雰囲気になってしまった点が挙げられる。

提言としては、(1)これからは(ルールを守った上で)できることを増やしていったり、代替案を考えていくことが必要であること、(2)禁止・制限ではない前向きかつ芯が通ったメッセージの工夫が必要であること、(3)みんなが一人で頑張るのではなく、「助けてもらいやすさ」を高めていくこと、その環境を大学が提供していくこと、を提言する。

学生生活サポート2021
2021.8.29 18:00-18:08

教育学部グループ2 プレゼンテーション

コロナ禍の今、「人の繋がり」というテーマについて、 三重大生や教職員は何に困っているか

【学生】

- ・ イベントがなくなることでのつながりやつながりがないこと
- ・ 経験のできないことによる不安感(実習など)
- ・ 授業が文字で見ているだけになることが多く自分事のように感じられないイメージが持てない
- ・ 友達に質問しにくい、授業の理解がしにくい
- ・ 通学や、オンライン受講の授業などで勉強のリスク
- ・ 先輩から話を聞ける機会がなくなった感じがする

【教職員】

- ・ 学生がいない→寂しく感じる、心理的ストレス
- ・ 人との会話ができない、距離感がなくなってしまった
- ・ 学生などの様子や状況が分かりにくい
- ・ 相談にのってもよいのかどうかも分かりにくい

「人の繋がり」にまつわる困り事の 原因・要因とは何か

【学生】

- ・ オンラインのツールの多様性を知る
- ・ 機会の制限、経験できる場所がない
- ・ 機会の制限により諦めの気持ちが出てきてしまっている
- ・ 授業時間外のつながりがないこと
- ・ ICTの活用が足りないのでは

【教職員】

- ・ みんなが我慢を強いられている→ストレス
- ・ 禁止のメッセージではなく、できることのメッセージを送る必要
- ・ 学生にとって頼れる場所がどこなのか分からないこと

(実際の困りごとを踏まえて)コロナ禍であっても 今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを 取れるようになるための企画や仕組みの提言!

- ・ できることを増やしていく方向で考える→そのためには改めてルールを守る意識
- ・ 代替案を前向きに考える(ツールをうまく活用しながら)
- ・ 応用活動の工夫→制限が増えるのでは
- ・ ルールなども具体的に分かりやすく、意を凝らして伝えてほしい。
- ・ ICTを活用した授業
- ・ ICT環境が整っている環境の充実→できることが増える
- ・ 学生や教職員などへのメッセージの出し方の工夫
- ・ 頼れる場所をたくさん見つけるようにする
- ・ 「助けてもらいやすさ」を高める、学習する
- ・ 大学としてやるべきことをしっかり考える
- ・ 授業内外で「相談ができる時間」を確保する、ルール化する
- ・ 悩みなどを知る機会をつくる、機会と授業内容など→いろんな人に知らせる

グループ6:教育学部グループ③

現在の課題として、周りの様子が分からない、ネット環境に左右される、家族との関わりが薄くなった、学部・学科を越えた関わりが少なくなった、学校現場での子どもたちとかかわりにくい、教職員からも学生とコミュニケーションが取りにくい等が挙げられた。

そこで、オンライン上で『何もしないスペース』の導入を提言する。いつでも雑談できる場所としてもよいし、時に共通の目的や趣味を共有する場、情報交換ができる場所としてもよいのではないか。様々な学部・学科の人とつながれる機会も検討すべき。また、学内で相談できる場所があることをSNSで発信することも提言したい。

学生生活サービス課
2021.3.29(水) 13:00～16:00

教育学部グループ③

「オンライン上でのより良い繋がりを目指した『何もしないスペース』の導入」

コロナ禍の今、「人の繋がり」というテーマについて、三重大生や教職員は何に困っているか

【学生】

- 何処や何処まで他の学生の動きが知らなかったこと（自分から情報を取りにくい）
- 留学経験の不足
- ネット環境に左右される
- 家族との関わりが薄くなった
- 他学科、他コースの学生との関わりが少ない
- 学校現場での子ども達との関わりが持ちづらい

【教職員】

- 学生の通信環境により、オンライン上でのコミュニケーションがスムーズにいかない
- インフォーマルな関わりがしづらい
- 授業外での指導や実習に当たった時の指導が難しい
- 個人情報取り扱いが多いため、リモートワークが難しい

「人の繋がり」にまつわる困り事の原因・要因とは何か

【学生】

- 関りが少なくなってしまうことへの慣れ
- 先輩・後輩の縦のつながりの薄れ
- 実習中の子ども達との関わりが制限
- コロナの感染により他者に迷惑をかけてしまうことへの心配

【教職員】

- 対面での繋がりを実施した際、万が一コロナにかかってしまった場合に、世間からの心ない声があること（ちゃんと対策をしていたとしても）
- オンラインに行き過ぎた
- オンライン授業でのオン・オフの切り替え

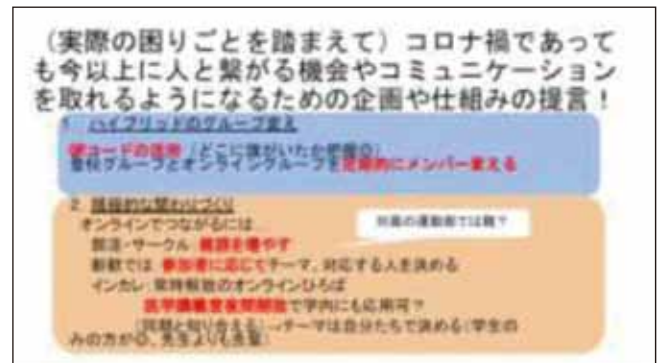
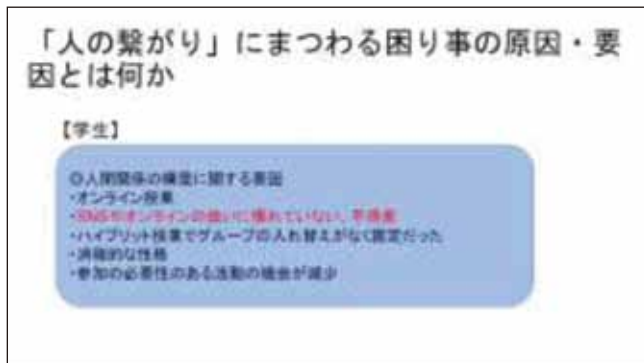
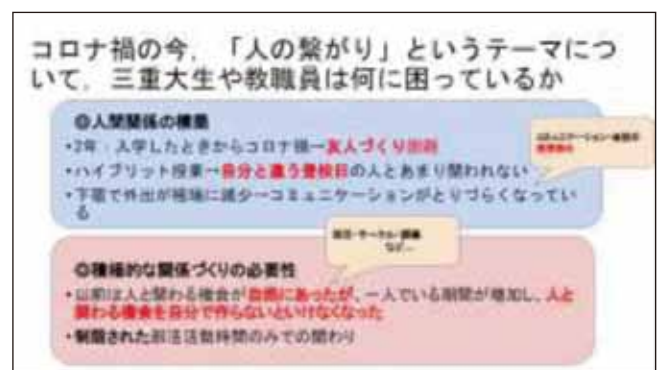
（実際の困りごとを踏まえて）コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを取れるようになるための企画や仕組みの提言！

- 授業外で、「オンライン何もしないスペース」的なものの設置
- 先輩から後輩に授業の理解等の指導
- 匿名のアドバイザー・初対面の人とも交流
- 共通の目的・共通の趣味
- いつでも雑談ができる場所
- オンラインでできる取り組みの情報を流す他コース・他学科とのつながりの検討
- 学部の授業に関しては、様々な学科と選正人数によるクラス編成をして、対面実施
- 他所属の同期との情報交換が出来る場所
- 何でも相談できる場所を気軽に紹介する→SNS（Twitter、Instagram）での発信

グループ7:医学部グループ①

現在の課題として、友人作りが難しかったり、登校日の違う人と関われない等の「人間関係の構築について」の課題や、制限がある中で雑談・交流が少なかったり、人と関わる機会を自分で作っていかないといけない等の「積極的な関係づくりの必要性」についての課題があるように思う。それらを生み出す要因としては、オンライン中心の環境であることやその環境に慣れていないこと、メンバーが固定されていること等が挙げられる。

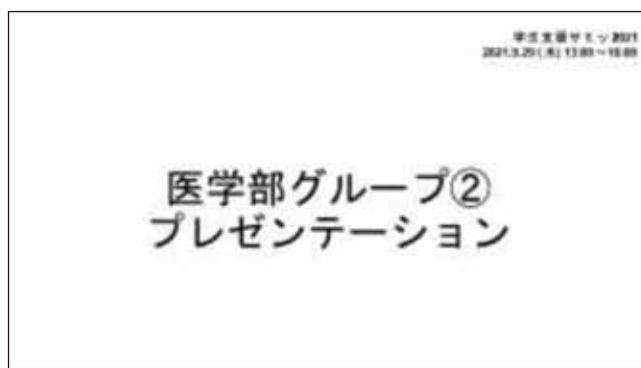
提言として、まずはQRコードを書く用しながら対面グループとオンライングループを定期的にメンバーを変えることを提案したい。また、積極的な関係作りとして、オンラインでの課外活動の中で雑談する機会を増やしたり、夜間開放の可能性も含めたオンラインひろばのような場所を作ることによって、そこに学生はフラッと立ち寄ることができるし、学生主体でのやりとりが可能になると考えられる。



グループ8:医学部グループ②

現在の課題として、上下あるいは横のつながりの持ちにくさや学習のやりにくさ、課外活動でのやりとりの減少、教職員からしても学生や教職員同士のやりとりの難しさが挙げられた。要因としては、同時並行のやりとりができない、一部の人の負担がいく、交流の参加者が限定的、オンライン参加のハードルがあること、さらの教職員の間でルールの一統が難しい等が挙げられる。

それらを踏まえた提言として、つながる機会がなぜ不足するか理由について、オンラインでの利益とコストという側面から評価し、変えるべきところを修正した改善案を作っていくことが必要であることを提案する。例えば、なぜ参加しないかの理由の一つに、参加しても反応やレスポンスがないことが挙げられ、フィードバックに対するさらなるフィードバックがあれば参加することの意義を感じやすいのではないかと考えられる。また、匿名性のある程度担保した上で、教員と学生の意見が相互に出せる場があるとよい。他方、縦のつながりを人為的に作る試み(例:学年内で班を作り、さらに縦でそれらの班をくっつける)もありではないか。



コロナ禍の今、「人の繋がり」というテーマについて。三重大生や教職員は何に困っているか

【学生】

- 上下のつながりがやりにくい
- 仲のいい人以外とやり取りしない一極化のペース配分が多い
- グループ学習ができず、孤独
- 全体的な学習状況の把握の難しさ
- サークルでもやり取りの減少
- 学生と教職員で困っていることにギャップがある(学生が求めていることと先生方が考えていることなど)

【教職員】

- 食事などで仲を深めることが難しい
- 立場上指導をしないといけないので、学生とよい関係を築くのが難しい

「人の繋がり」にまつわる困り事の原因・要因とは何か

【学生】

- 全員参加ができず、一部の人の負担がいく
- オンラインで交流しても、参加者が限定的
- グループ内的小グループなどでの交流もやりにくい
- 対面でないで、人との交流にハードルが上がっている
- 対面に比べて、話が進みにくい(語り合い、雑談から発展することが少ない)
- オンラインでの交流、学習に慣れていない

【教職員】

- マスクなどで表情も見づらい
- ルールや状況に応じた変更があつて、難しい
- 教員同士でも意見の統一などが難しい

(実際の困りごとを踏まえて) コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを取れるようになるための企画や仕組みの提言！

- 参加することによるインセンティブが必要(講義など)
- 授業の終わりやアンケートでフィードバックする仕組み(フィードバックに対してできるだけ速くフィードバック)
- 匿名性や事務職員を介すなどして、フィードバックもよりやりやすくする
- 授業の前後に自由に話せるように(割り当てではなく、自由に選択して入れるように)
- いろんなコミュニティで交流会(自宅生、クラブなどの枠組み)

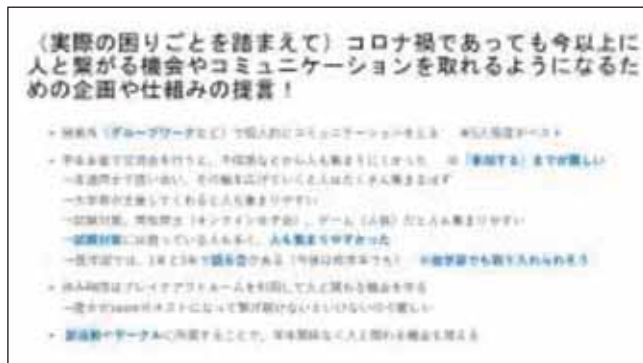
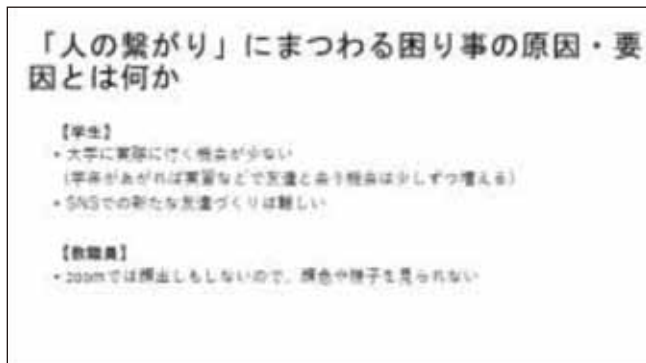
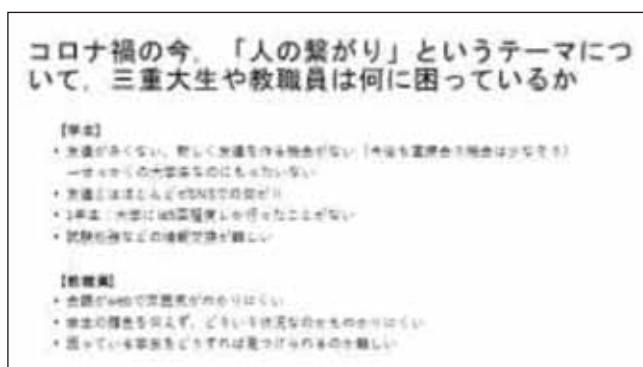
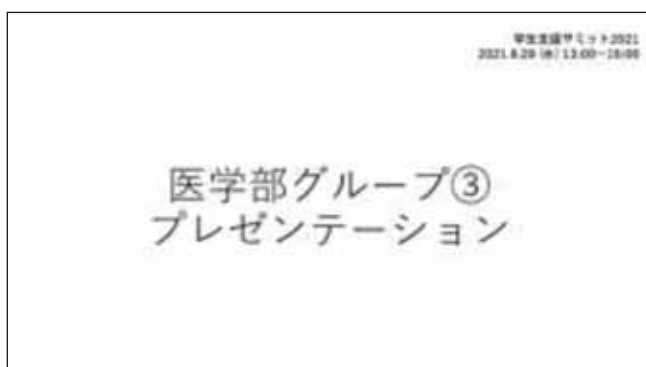
(実際の困りごとを踏まえて) コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを取れるようになるための企画や仕組みの提言！

- 教員と学生が自由に話せる場、意見が言える場、反応が見れる場(匿名性も活かして、自分に必要なことを中心に)
- 縦のつながりを人為的に作る(1~4 or 5年全員いる)
- グループ学習で交流する場所
- タウンミーティングをやるときには、自分に関係のあることを中心に、細かく分けて、議事録も付ける
- つながる機会が不足している理由をオンラインにおけるコミュニケーションのコストとベネフィットの側面から評価する必要がある

グループ9:医学部グループ③

現在の課題として、友達が少なく新しく友達を作る機会がないことや、友達とはほとんどがSNSでの繋がりだけであること、試験勉強などの情報交換が難しいことが学生から挙げられ、教職員からは会議や授業で雰囲気や顔色、状況がわかりにくいこと、困っている学生をどうすれば見つけられるのか難しいことが挙げられた。

提言として、まずは授業外(グループワーク等)でコミュニケーションをとる機会(5人程度がベスト)を作ることを挙げる。また、単純に交流会を企画しても参加することが難しい印象があることから、既存の友人関係の輪を活かせる集客方法や大学側が主催する形、目的を絞った企画等の工夫を伴った交流企画の開催も提案する。実際に医学科では試験対策に困っている人が多いことから対策企画に多くの人が集まったり、他学部でも取り入れることができそうな「語る会」を開催した。また、休み時間をつながりを作るために有効活用する案や、課外活動への参加の促進も必要ではないかと考えた。



グループ10:工学部グループ①

現在の課題として、課外活動にて活動が制限されていること、授業及び研究活動では学生同士の交流の機会が減少してしまったこと、直接会うことが難しいために友人がでにくい大学環境になったことが挙げられる。

それらの課題に対する提言として、規則をきちんと定めた上での課外活動の許容範囲を拡大していくこと、授業ではグループでの取り組みの機会を増やしたり、学生が各自の生活リズムに合わせて受講できるようにオンデマンド授業をうまく取り入れること、常時開放型のZoomミーティングを作って学生同士で交流できる場を作ること、を提案する。



部活・サークル活動

- ・部活動で新入部員が満足に獲得できなかった
 - 同年大人数集めていた部活動の制限→部活動の許容範囲の幅を広げる
 - 活動費等の場が広まる→ビザ配り
- ・活動制限
 - 部活動感染対策をしながらであればコロナ禍においても部活動は行われている(研究室なども同じ)
 - ルールをきちんと守って対面授業などをどんどん行うべき
 - マスクを着用して喋ったりする分にはよっぽど問題ないのでは
 - 食事の時はマスク必須

授業体制

- ・数学内容の低下→質疑応答等の減少
 - リアルタイム授業は質疑等の場
- ・オンライン授業→講義(教授と一対一関係性)
- ・授業時間内の交流の場減少→人との繋がり減少
 - グループでの取り組みの強化
- ・学生同士交流減少→講義時間は学生間での学び合い
- ・収入の減少→夜バイトの減少、自費時間の拘束
 - オンデマンド授業に

研究室内・外

- ・研究室内
 - 研究室の先輩に研究内容について相談し辛く進め辛い
 - 研究室で会う機会が少ない
 - 研究室用のいつでも繋がれるフリーzoomルームを作る
- ・研究室外
 - 他の研究室の友達と話す機会が減ってつまらない
 - 集まって話す機会がない
 - 他研究室の人とも繋がれるフリーzoomルームを作る

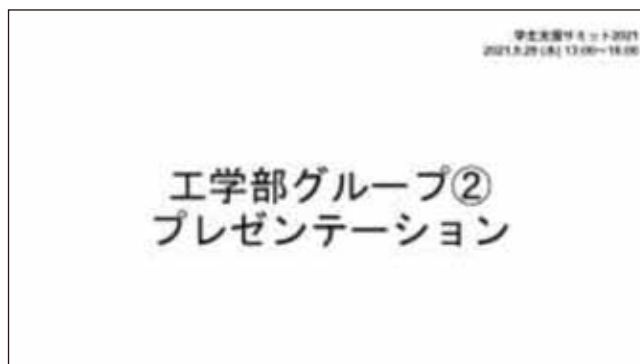
友達作りの機会の場

- ・友達ができにくい環境
 - 直接コンタクトする機会が少ない、周りと協力して何かをする機会が少ない
 - 少人数でもいいから機会を作る、勉強以外で何かグループで活動する時間を作る

グループ11:工学部グループ②

現状の課題として、学生からはマスクで表情が見えにくい・人間関係が減った・海外での発表機会がない等が、教職員からは(学生の)顔を覚えにくい・研究以外のコミュニケーションや踏み込んだ繋がりができない・日常会話での情報共有が減った等が挙げられた。

提言として、特に支援が必要な新一年生にチューター(上級生)をつける制度の導入、共感的な雰囲気を促進するためにオンライン会議ではマスクを外す、交流の機会としての町屋海岸の清掃活動レクリエーションの3点を提案する。



コロナ禍の今、「人の繋がり」というテーマについて、三重大生や教職員は何に困っているか

【学生】

- ・ マスクで表情が見えにくい
- ・ 人間関係が減った(アルバイトの減少)
- ・ 海外(現地)での発表機会がない

【教職員】

- ・ 顔を覚えにくい、研究以外のコミュニケーション(お酒)
- ・ 踏み込んだ繋がりができない
- ・ 日常会話(雑談)での情報共有が減った

「人の繋がり」にまつわる困り事の原因・要因とは何か

【学生】

- ・ 対面が減った
- ・ 共感が少ない(表情が見れない)

【教職員】

- ・ 偶発の出会いがない(雑談の機会)
- ・ オンラインでは、目を見て話すことが難しい

(実際の困りごとを踏まえて)コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを取れるようになるための企画や仕組みの提言!

- ・ **新一年生にチューター(上級生)をつける制度**
- ・ オンライン会議ではマスクを外す
- ・ **町屋海岸の清掃活動としてレクリエーション**

新1年生にチューター(上級生)をつける制度

- ・ 新一年生1人1人にチューター(上級生)をつけることで悩みを気軽に相談できて、新入生の孤独感をなくすることができる。
- ・ 履修登録やMoodleの使い方なども先輩から学ぶことができる。
- ・ 縦の繋がりの強化
- ・ 上級生の責任感や教える力等の成長を促せる。
- ・ **コロナ後も有効!!**

オンライン会議ではマスクを外す

- ・ 聞き手側の圧迫感を減らせる
- ・ 表情を眺むことができる、共感しやすい

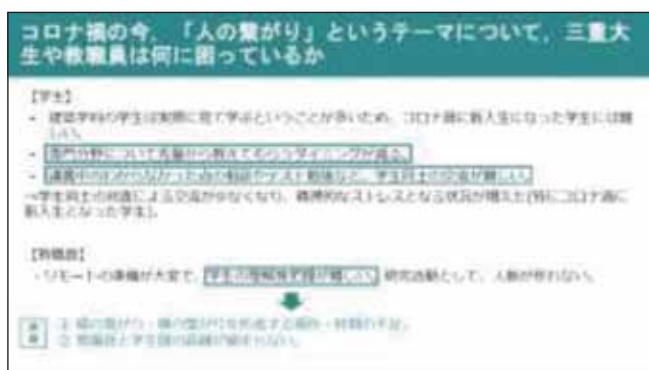
町屋海岸の清掃活動としてレクリエーション

- ・ 環境保全もしつつ、学生間での交流も行うことができる。
- ・ 海岸で行うため、風通しも良く密にもなりにくいため、感染しにくい

グループ12:工学部グループ③

現在の課題として、①縦の繋がり・横の繋がり形成する場所・時間の不足、②教職員と学生間の距離が縮まらない、③イベントのような単発企画ではなく長期的な企画や講義のような参加する強制力の必要性、④教職員の負担を増やさず、簡易的に開催できる企画が求められる、の4つが考えられる。

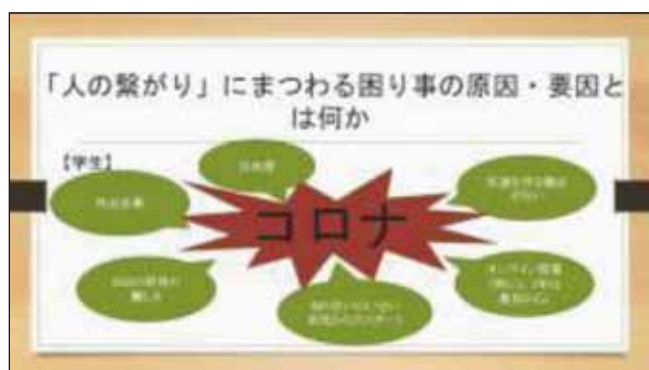
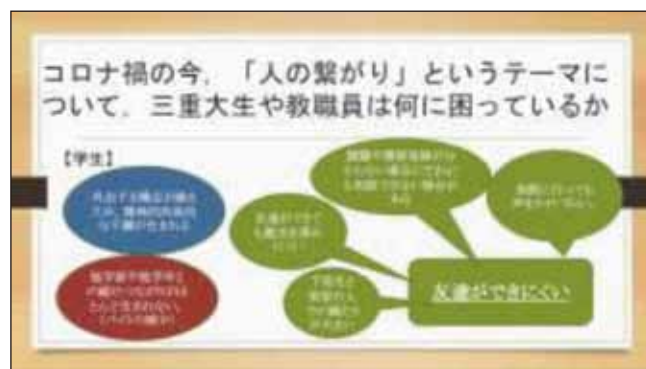
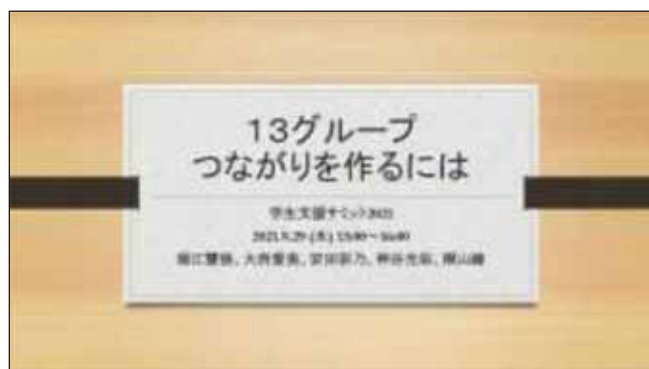
そこで、(1)オンライン上でのプラットフォームを設立(教職員が責任者となり、学生を主体に学年、学科別に定期開催(①③④に対応する提言))、(2)YouTube を用いた教職員のインタビュー(学生同士の会話のタネとなり、学生から見た教職員の解像度を上げる(②に対応する提言))、(3)講演会による学外との繋がりを広げる(学科別に絞ると専門的なゲストを呼びやすく、就職活動にも繋がる(①③に対応する提言))の3つを提案する。それらの企画を統合し、コロナ収束後も見据えつつ、学内の繋がりを強化しながら、それを徐々に学外に広げていく動きが今後必要であると考えられる。



グループ13:生物資源学部グループ①

現在の課題として、一番大きかったのが「友達ができにくい」ことだった。関係のきっかけを作る機会がなかったり、親交を深めにくかったり誰にも相談できない状況だった。また、外出の機会が減ったため心身ともに不調がうまれる可能性が高くなったり、学部・学科・上下関係を越えた人の繋がりも希薄だった。それらを生み出した要因はやはり新型コロナウィルスの感染拡大であり、それに伴って友だちを作る機会がなくなったり、知り合いがいない状況からスタートすることになったり、相談できる人・頼れる人ができなかった。また、SNSを使える人は友達ができやすいが、SNSを使えない人はその機会もなかったように思う。

そこで、まずは感染対策をしっかりした上で、実習等の実際に会う機会を作ることを提言したい。また、自発的・意欲的に取り組めるディスカッション式のプログラムが増えると、繋がりもできやすくなることが期待される。ただし、そういう場に苦手さを感じる学生もいることから、もう一工夫が必要である。そこで、三重大生が開発したMieetを活用したり、マルチプレイゲームを活用した企画もあると、共通の趣味等で繋がる可能性も広がる。以上から、授業での交流等の強制的に参加する企画からSNS等を活用した自主的に参加する企画まで、幅広いニーズに対応した企画の実施が望ましいという結論に至った。



- コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを取れるようになるための企画や仕組み
- ・実習などの実習にあって取り組む機会を作る。(感染リスク?)
 - ・自発的に意欲的に取り組むディスカッション式のプログラムを増やす(知り合いができやすい(参加のハードルが高い、対面やオンライン?))
 - ・Mieet(三重大限定の友達作りアプリ)を推奨する。(ハードルが低い)
 - ・マルチゲームを開発する。一エイベックス、人狼、麻雀など
 - ・一対面的に実施できる企画または楽しみながら会話できる企画がほしい。

グループ14:生物資源学部グループ②

現在の課題として、学生からはオンラインで話すことには限界があることや、関係作りにとって重要な部活やサークルの情報が全く得られず発信にも難しさがあったこと、ハイブリッド・対面で受けたとしても、教員はカメラに話すことから対面での実感を感じにくいことが挙げられた。教職員からも、対面ほどの授業感を出すのが難しいことや生徒とのつながりを持っているか不安があること、学生に確認が取りづらい等の課題が挙げられた。それらの課題を生み出す要因としては、課外活動の入りが分からない等の情報の少なさや友人関係を築く機会や場が限られていること、オンラインの楽しさに学生側が慣れてしまったことが学生から挙げられ、一方の教職員からはハイブリッドにしても授業に来ない学生がいたり、オンラインゆえに学生の名前と顔が覚えにくい等の要因が挙げられた。

以上の現状を踏まえ、授業面ではまず研究室配属前の学年に対して研究室の紹介ができる場を増やすこと、ハイブリッドよりもオンラインか対面かをもっとはっきりさせた授業運営、なるべくカメラをONにする授業を増やすことを提言したい。また、課外活動の面では、休み時間を使った課外活動団体の紹介の機会を作ったり、課外活動をもっと広めるための委員会のような組織の設立を提言する。

学生生活サポート 2021
2021.03.03(水) 13:00~14:00

人との繋がりを意識した取り組み

生物資源学部 グループ②

コロナ禍で「人の繋がりに」に対して何に困っているか

【学生】

- オンラインで話すことには限界がある。
- 部活やサークルの情報が全く得られなかった。SNSでしか成ることはできなかったため、SNSでの発信があった。
- ハイブリッド、対面で受けたとしても、見るのはスクリーンで、実感はずいぶん違って来ないといけないうえ、対面での実感を覚えることがない。

【教職員】

- 対面での授業感を出すことは難しい。
- 生徒とのつながりを持っているか不安がある。
- どういう授業か、というのは聞いてみないと分からない。
- 確認が取りづらい。



「人の繋がりに」まつわる困り事の原因・要因とは何か

【学生】

- 友人関係を築く場が限られている。
- 部活・サークルの入りが分かりにくい**
- ハイブリッドでも授業に来ない生徒がいる
- オンラインの楽しさに慣れてしまっている
- 情報が少ない、タイミングが悪い

【教職員】

- ハイブリッドでも授業に来ない生徒がいる
- 学生の名前と顔が覚えられない



以上より、コロナ禍で「人の繋がりに」を可能にするには

【授業】

- 研究室の紹介ができる場を増やす
- ハイブリッドではなくて、オンラインか対面かどちらかはっきりさせて授業を行う
- カメラONの授業を増やす

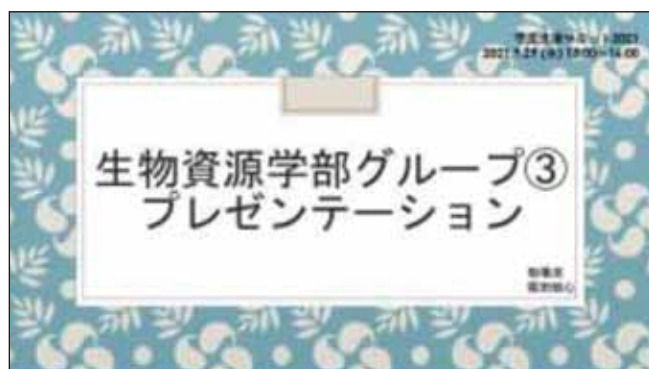
【課外活動】

- 休み時間を利用した課外活動紹介
- 体育系、文化系問わず、課外活動を広める委員会の設立**

グループ15:生物資源学部グループ③

現在の課題として、学生からは授業で気軽に質問ができないことや学生同士で教えあうことができないこと、サークルやコミュニティに誘われる機会がないことが挙げられた。それらの課題の要因として、授業が一方通行で、授業が終わるとすぐにZoomを終了してしまうことや授業時間外に周りの人と自由に会話できないこと、Zoomの授業では授業以外の内容がない(交流企画の案内とかがない)ことが考えられた。教職員からは、学生の困っていることがわからないし、授業中に学生がどのように授業を受け、何しているか、課題にどう取り組んでいるのかが分からない等の課題が挙げられ、その要因として、カメラオフ・ミュートが基本だから相手の様子が分からないことや学生側からメールで質問がなかなか来ないことが考察された。

提言としては、ほとんど繋がりのない1年生向けの企画とある程度の繋がりがあることが想定される2年生以上向けに分けてアイデアを提案する。まず、2年生以上向けの企画として、授業等の機会を使って常設の交流会(例:課題を一緒にやる交流会)を周知し、課題・科目ごとにブレイクアウトルームを設定し、共通の課題に取り組んだり交流する企画の開催がよいのではないかと考えられる。一方の1年生向けの企画としては、学科単位で1年生を早い時期に集めて交流企画(例:パソコンを使わなくてもつながるようにディスコード等のアプリを適宜使いながら、共通の趣味を見つけて交流する企画、あるいは友人を作ることを目的にしたゲーム大会)の周知・開催をすれば、人との繋がりができやすくなるのではないかと考えられる。



コロナ禍の今、「人の繋がり」というテーマについて、三重大生や教職員は何に困っているか

【学生】

気軽に質問ができない。
学生同士で教えあうことができない。
サークルやコミュニティに誘われる機会がない。

【教職員】

学生の困っていることがわからない。
何しているかわからない。

「人の繋がり」にまつわる困り事の原因・要因とは何か

【学生】

授業が一方通行で、ZOOMを終了してしまう。
授業後や休みに人と自由に会話できない
ZOOMの授業内で、授業以外の内容がない

【教職員】

カメラオフ、ミュートが基本だから
メールで質問がなかなか来ない

(実際の困りごとを踏まえて)
コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを取れるようになるための企画や仕組みの提言！

2年生以上向け) 強制的に全員がいる場で、いろんな場があることを周知する。常設の交流会、目的として課題を一緒にやる会連コース単位を全体周知し、集めた後やりたい課題の科目ごとにブレイクアウトで、共通の課題をする。

1年生向け) 学科単位で1年生を4月段階で強制的に集めて提案をする。夜、パソコンを使わなくてもつながれるように、ディスコードを使って、共通の趣味を見つたり、友人を作ることを目的にしたゲーム大会を開催する。

4 優秀グループの投票

「withコロナ時代に求められる『人の繋がり』の形in三重大学」をテーマに、①「人の繋がり」というテーマについて、三重大生や教職員の困りごとや課題は何か、②その困りごとや課題の原因(要因)は何か、③(それらを踏まえた上で)コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを気軽に取れるようになるための企画や仕組みの提言について、学生・教員・職員がディスカッションを行い検討した。

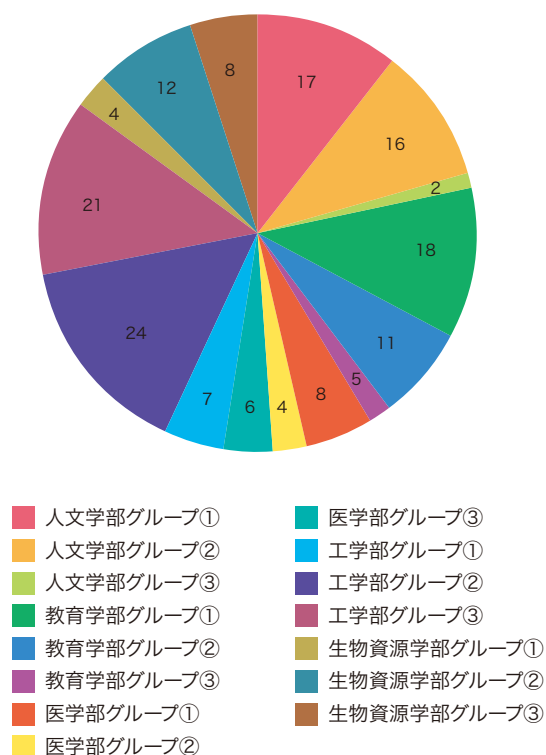
全15グループが提言に関するプレゼンテーションを行い、どのグループのアイデアが最も優秀であったかについて、参加した学生・教員・職員に投票を行った。

各自最も良かったと思うグループ2つを選ぶ投票を行った結果、工学部グループ②が得票数24(得票率29.6%)となり、優秀グループ1位に選出された。次いで、工学部グループ③が得票数21(得票率25.9%)で2位に、教育学部グループ①が得票数18(得票率22.2%)で3位となった(表3、図1)。

表3 各グループの得票数及び得票率

	得票数	得票率
人文学部グループ①	17	21.0%
人文学部グループ②	16	19.8%
人文学部グループ③	2	2.5%
教育学部グループ①	18	22.2%
教育学部グループ②	11	13.6%
教育学部グループ③	5	3.2%
医学部グループ①	8	9.9%
医学部グループ②	4	4.9%
医学部グループ③	6	7.4%
工学部グループ①	7	8.6%
工学部グループ②	24	29.6%
工学部グループ③	21	25.9%
生物資源学部グループ①	4	4.9%
生物資源学部グループ②	12	14.8%
生物資源学部グループ③	8	9.9%

図1 各グループの得票結果



1位：工学部グループ② 【得票数24(得票率29.6%)】

(1)新一年生にチューター(上級生)をつける制度

- ・新一年生が悩みを気軽に相談でき、孤独感をなくすることができる
- ・履修登録やMoodleの使い方なども先輩から学ぶことができる
- ・縦の繋がりの強化
- ・上級生の責任感や教える力等の成長を促せる
- ・コロナ後も有効

(2) オンライン会議ではマスクを外す

- ・聞き手側の圧迫感を減らせる
- ・表情を読むことができる、共感しやすい

(3) 町屋海岸の清掃活動としてのレクリエーション

- ・環境保全もしつつ、学生間での交流も行うことができる
- ・海岸で行うため、風通しも良く密にもなりにくいいため、感染しにくい

2位：工学部グループ③ 【得票数21(得票率25.9%)】

(1) オンライン上でのプラットフォームを設立

- ・教職員が責任者となって、学生を主体に学年、学科別に定期開催する

(2) YouTubeを用いた教職員のインタビュー

- ・学生同士の会話のタネとなり、学生から見た教職員の解像度を上げる

(3) 講演会による学外との繋がりを広げる

- ・学科別に絞ると専門的なゲストを呼びやすく、就職活動にも繋がる

3位：教育学部グループ① 【得票数18(得票率22.2%)】

(1) (学生支援サミットのようなイベントの機会を作り)自分の好きなことを話そう！

- ・グループを作り、順番に自分の好きなことについて話していく(グループを入れ替える・学生だけでなく教員も参加・可能であれば対面で定期的に開催)

得られるであろう効果…

- ・自分の好きなことを話す→満足感、精神安定
- ・人との交流(共通の趣味を持つ人とのかかわり)
- ・他の学部・学科の人との交流により、視野が広がる
- ・好きなことが共通であれば楽しいし、盛り上がる・話も広がる

学生支援サミット2021 ～ withコロナ時代に求められる「人の繋がり」の形 in三重大大学 ～

2021年10月08日

9月29日(水)、「学生支援サミット2021 ～withコロナ時代に求められる「人の繋がり」の形 in三重大大学～」をオンライン開催しました。

本サミットは、学生・教員・職員が協働しながらディスカッションを行い、より良い三重大大学となるよう考えていく貴重な機会として、学生総合支援機構主催で毎年開催されているイベントです。本年度は「withコロナ時代に求められる「人の繋がり」の形 in三重大大学」をテーマに、学生・教職員合わせて94名が参加し、学生総合支援機構障がい学生支援センターの風間惇希講師の進行のもとサミットが行われました。



冒頭、学生総合支援機構長の鶴原清志教育担当理事から「本日はいろいろな形でお話いただいて、グループの中での提案や提言が一つでも何かの形になればと思いますので、ぜひ活発なご意見等をお寄せいただければと思います。」と開会の挨拶がありました。

続いて、風間惇希講師より今回のテーマである「withコロナ時代に求められる「人の繋がり」の形 in三重大大学」についての説明がありました。

学生は学部ごとに教職員を含めたグループに分かれ、グループワークを行いました。

その後、各グループのプレゼンテーションが行われ、コロナ禍の今、「人の繋がり」というテーマについて、学生や教職員は何に困っているのか、その困りごとの要因(原因)、更にコロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを取れるようになるための企画や仕組みの提言について発表されました。

コロナ禍の今、「人の繋がり」というテーマについて、三重大生や教職員は何に困っているか

【学生】

- ・ マスクで表情が見えにくい
- ・ 人間関係が減った(アルバイトの減少)
- ・ 海外(現地)での発表機会がない

【教職員】

- ・ 顔を覚えにくい、研究以外のコミュニケーション(お通)
- ・ 踏み込んだ繋がりができない
- ・ 日常会話(雑談)での情報共有が減った

(実際の困りごとを踏まえて) コロナ禍であっても今以上に人と繋がる機会やコミュニケーションを取れるようになるための企画や仕組みの提言！

- ・ 新一年生にチューター(上級生)をつける制度
- ・ オンライン会議ではマスクを外す
- ・ 町屋海岸の清掃活動としてレクリエーション

発表後、鶴原清志教育担当理事から「昨年度と比べて、新型コロナウイルスの感染対策が把握できてきたことを受け、‘何々の行動をしてはいけない’というマイナスのメッセージだけでなく、プラスのメッセージも出せるように考えていきたい。また、学生の皆さんはSNSを駆使しているように見えても、実はコミュニケーションに大変苦勞していることが把握できたので、大学として、話合いのスペースを作るとか、上下の繋がり、学部間の繋がりなど、何か提供できるようにしていきたい。」と総括がありました。

最後に、学生総合支援機構副機構長の野崎哲哉教育(学生総合支援)担当副学長から「学生支援サミットの目的は、三重大で生じているいろいろな課題を取り上げ、学生だけでなく教職員も一緒になって考え、問題を顕在化させ今後の解決策を見つけていくというものであり、今回いただいたさまざまな意見を今後の学生支援の取組みに生かしていきたい。特に、対面に近い形での自由な話合いができるオンラインの場を設けることが重要であると感じているため、大学としてこのような場を工夫して設けていきたい。」と閉会の挨拶がありました。

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、今年度も学生支援サミットはオンライン上での開催となりましたが、学生・教職員の積極的なディスカッションが行われ、大変有意義なサミットとなりました。



三重大学学生総合支援機構ホームページ
<http://www.mie-u.ac.jp/life/>

国立大学法人 三重大学
問い合わせ先／学生総合支援機構
〒514-8507 津市栗真町屋町1577
TEL:059-231-9679

三重大学life

click